

2008-02-01 EDINET タクソノミ 対応

タクソノミフレームワーク設計書

(技術編：財務情報)

金融庁 総務企画局 企業開示課

改訂記録

日付	変更内容
2007. 2. 1	新規
2008. 3. 3	<ul style="list-style-type: none">・「3-11 合併時等で複数会社の財務諸表を併記する場合の取扱い」において、企業別タクソノミ及び報告書インスタンスの作成方法に関する記述を変更。・一部文言等を修正。

目次

1.	はじめに.....	5
1-1	本書の目的	5
1-2	本書の記載範囲と関連文書	5
1-3	本書の構成	6
1-4	凡例や省略語.....	7
1-4-1	図における凡例	7
1-4-2	省略語	7
2.	タクソノミフレームワークの前提.....	9
2-1	技術仕様.....	9
2-2	タクソノミ化対象業種及び関連法規等.....	9
2-3	タクソノミ化対象の財務諸表の範囲	9
2-4	財務諸表等規則等や業法等とタクソノミとの対応関係.....	9
3.	タクソノミフレームワークの構成.....	10
3-1	タクソノミの階層.....	10
3-1-1	語彙層	10
3-1-2	関係層	11
3-1-3	企業別拡張層.....	13
3-1-4	その他	16
3-2	語彙層のスキーマの設定方法.....	18
3-2-1	スキーマの設定単位	18
3-2-2	語彙タクソノミ間のインポートの設定	19
3-2-3	要素名(element名)	20
3-2-4	要素id(element id)	21
3-2-5	データ型(type)	21
3-2-6	代替グループ(substitutionGroup属性)	21
3-2-7	貸借区分(balance属性)	21
3-2-8	期間時点区分(periodType属性)	22
3-2-9	抽象区分(見出し区分)(abstract属性)	22
3-2-10	未設定可否区分(nillable属性)	22
3-3	語彙層の名称リンクの設定方法	23
3-3-1	設定するラベルロール	23
3-3-2	商工業・その他、共通語彙に対する業種ラベルのラベルロール	24
3-3-3	拡張リンクロールによる名称の切替	26
3-4	語彙層の参照リンクの設定方法	26

3-4-1	利用するパート要素と財務諸表等規則等又は業法等との対応.....	26
3-5	関係層のスキーマ設定方法	27
3-5-1	スキーマの設定単位.....	27
3-5-2	インポートの設定.....	28
3-6	関係層の表示リンクの設定方法	31
3-6-1	様式の設定	31
3-6-2	前期と異なる表記の設定方法.....	31
3-6-3	表示リンクによる勘定科目の名称の設定	32
3-7	関係層の計算リンクの設定方法	32
3-7-1	様式の設定	32
3-7-2	前期と異なる加減算関係の設定方法	32
3-8	関係層の定義リンクの設定方法	33
3-8-1	定義リンクの設定内容	33
3-8-2	作成単位.....	34
3-8-3	想定利用方法.....	34
3-9	URLとインポート・参照関係.....	35
3-9-1	URL.....	35
3-9-2	インポート・参照関係	38
3-10	企業別タクソノミと報告書インスタンスが複数になる場合について.....	40
3-10-1	1つの開示書類において、複数会社の財務諸表をXBRL形式で提出する場合 40	
3-11	合併時等で複数会社の財務諸表を併記する場合の取扱い	40
4.	インスタンス	43
4-1	報告書インスタンスの構成	43
4-1-1	報告書インスタンスのファイル構成	43
4-1-2	インスタンス化の範囲	43
4-1-3	タクソノミへの参照設定.....	43
4-1-4	コンテキストの定義.....	43
4-1-5	ユニットの定義	43
4-1-6	インスタンス値の記載	44
4-1-7	フットノートリンク	44
4-2	雛形インスタンスの構成.....	45
4-2-1	作成する雛形インスタンス	45
4-2-2	雛型インスタンスのコンテキスト.....	45
4-2-3	雛型インスタンスのユニット.....	45
4-2-4	インスタンス値の記載	45

4-2-5	フットノートリンク	45
5.	各種命名規約	46
5-1	名前空間URI	46
5-2	名前空間プレフィックス	51
5-3	拡張リンクロール・リソースロール	53
5-3-1	名称リンクの拡張リンクロール	53
5-3-2	表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロール	53
5-3-3	定義リンクの拡張リンクロール	55
5-3-4	フットノートリンクの拡張リンクロール	56
5-3-5	フットノートリンクのリソースロール	57
5-4	定義リンクにおけるアークロール	57
5-5	タクソノミファイル名	57
5-5-1	語彙層	57
5-5-2	関係層	58
5-5-3	企業別拡張層	61
5-6	インスタンスファイル名	62
5-7	ロールタイプスキーマ及び他要素スキーマのファイル名	63
5-8	コンテキストの設定値	63
6.	FRTA/FRISとの不整合及び注意点	65
6-1	FRTAとの不整合	65
6-1-1	名前空間プレフィックス	65
6-1-2	リンクベースのファイル名	65
6-1-3	定義リンクの拡張リンクのアークロール	65
6-1-4	名称リンクのロール	65
6-1-5	セグメント毎に記載される勘定科目	65
6-2	FRISとの不整合	65
6-2-1	FRTA違反のタクソノミによるエラー	65
6-2-2	期首のコンテキスト	65
6-2-3	フットノートリンク	66
6-3	検証に関する注意点	66

添付一覧

添付	説明
添付 1	EDINET で利用するタクソノミとインスタンス全体像
添付 2	タクソノミー一覧と根拠となる法令等について
添付 3	パターン別リンクベースファイル一覧
添付 4	ロール一覧
添付 5	アークロール一覧

1. はじめに

1-1 本書の目的

タクソノミフレームワーク設計書(技術編:財務情報)(以下、本書)はEDINETにおいて利用されるタクソノミフレームワークの定義を記載したものであり、タクソノミフレームワークは財務諸表等規則等や業法等(詳細は、「1-4-2省略語」参照)に準拠した有価証券報告書等を電子的に報告できるようにするためのタクソノミの枠組みである。本書の主な目的は次の通りである。

- EDINETのタクソノミフレームワークを定義すること。
- 本タクソノミフレームワークの前提となる技術仕様と、タクソノミ化対象業種及び関連法規等を明らかにすること。

1-2 本書の記載範囲と関連文書

タクソノミの全体図は図 1-1 の通りとする。本書では技術的な観点から財務情報に関するタクソノミ(以下、財務情報タクソノミ)のタクソノミフレームワークを記載する。会計編では、会計的な観点から財務情報タクソノミのタクソノミフレームワークを記載、文書情報編では、文書情報に関するタクソノミ(以下、文書情報タクソノミ)のタクソノミフレームワークを記載する。

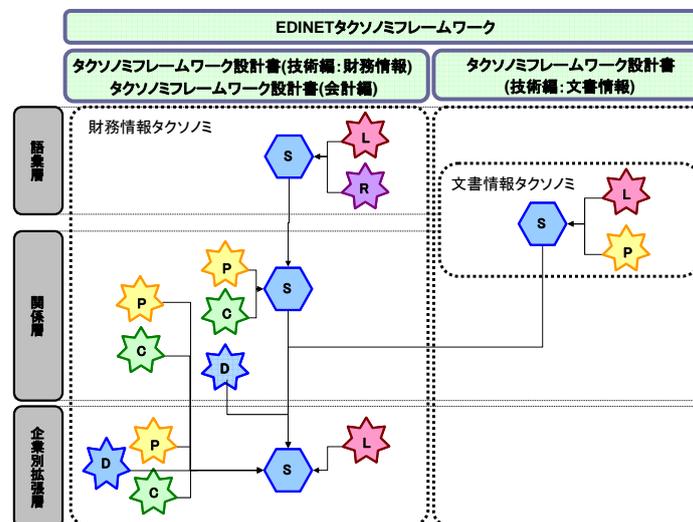


図 1-1 関連文書とタクソノミフレームワークの関係

本書を含めた関連文書の構成図については図 1-2 の通りである。

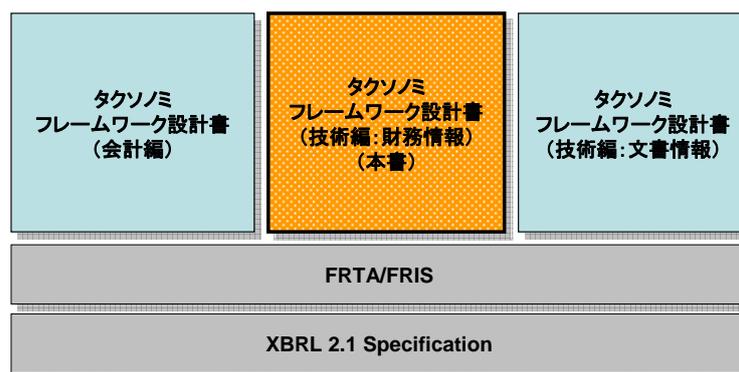


図 1-2 関連文書の構成

1-3 本書の構成

本書の構成は、次の通りである。

- 1 章
本書の目的及び前提について説明する。
- 2 章
本タクソミフレームワークの前提となる技術仕様と、タクソミ化対象業種及び関連法規等を記載する。
- 3 章
階層化したタクソミの全体像と、それぞれの階層で設定する内容について記載する。
- 4 章
本タクソミフレームワークに従ったタクソミをもとに提出会社が作成すべきインスタンス(以下、報告書インスタンス)と、EDINET が提供する雛形インスタンスについて記載する。
- 5 章
本タクソミフレームワークの構成要素に対する命名規約を記載する。
- 6 章
本タクソミフレームワークに従って作成するタクソミや報告書インスタンスについて、FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) や FRIS(Financial Reporting Instance Standards)と不整合が発生する事項や、注意点を記載する。

1-4 凡例や省略語

1-4-1 図における凡例

本書で各図における凡例は、図 1-3 の通りである。

< 凡例 >

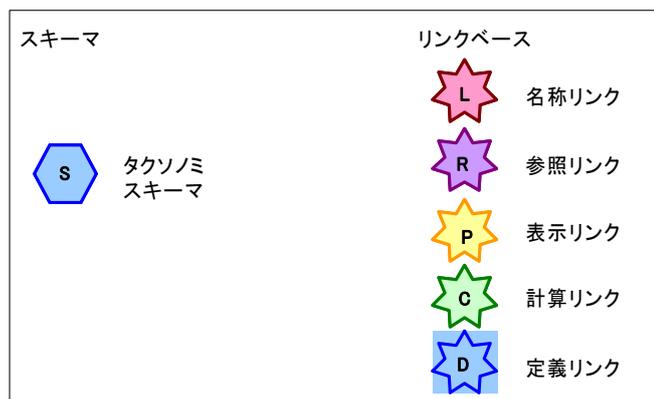


図 1-3 図における凡例

1-4-2 省略語

本書では、用語を表 1-1 の通り省略する。

表 1-1 用語一覧

No	省略語	説明
1	財務諸表等規則	「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 38 年大蔵省令第 59 号)
2	連結財務諸表規則	「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 51 年大蔵省令第 28 号)
3	四半期財務諸表等規則	「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成 19 年内閣府令 63 号)
4	四半期連結財務諸表規則	「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成 19 年内閣府令 64 号)
5	中間財務諸表等規則	「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 52 年大蔵省令第 38 号)

No	省略語	説明
6	中間連結財務諸表規則	「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成 11 年大蔵省令第 24 号)
7	財務諸表等規則等	財務諸表等規則、連結財務諸表規則、四半期財務諸表等規則、四半期連結財務諸表規則、中間財務諸表等規則、中間連結財務諸表規則の総称
8	業法等	当庁が業種別財務諸表タクソノミとして設定した業種のうち、財務諸表等規則第二条及び第二条の二の適用を受ける会社等が、当該事業の所管官庁に提出する財務諸表の用語、様式及び作成方法について法令の定めがある場合、当該事業の所管官庁が財務諸表等規則に準じて制定した財務諸表準則等がある場合、業界団体が作成している所定の財務諸表の開示様式がある場合の、当該法令又は財務諸表準則等
9	財務諸表等タクソノミ	財務諸表等規則等に準じたタクソノミ
10	業種別財務諸表タクソノミ	業法等に準じたタクソノミ

2. タクソノミフレームワークの前提

2-1 技術仕様

本タクソノミフレームワークが想定する XBRL 文書の技術仕様は、XBRL International が公開している XBRL 2.1 Specification Recommendation-errata 2006-12-18 に準拠するものとする。また、タクソノミは FRTA Recommendation-errata 2006-03-20、報告書インスタンスは FRIS Public Working Draft 2004-11-14 にそれぞれ準拠するものとする。

2-2 タクソノミ化対象業種及び関連法規等

本タクソノミフレームワークでタクソノミ化の対象とする業種と関連する法規等については、「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」に記載の通りとする。

2-3 タクソノミ化対象の財務諸表の範囲

本タクソノミフレームワークでタクソノミ化の対象とする範囲は、有価証券報告書、四半期報告書、半期報告書、有価証券届出書の財務諸表部分である。

2-4 財務諸表等規則等や業法等とタクソノミとの対応関係

財務諸表等規則等や業法等の構成要素と XBRL の構成要素を 表 1-2 の通り対応付ける。

表 1-2 財務諸表等規則等や業法等の構成要素と XBRL の構成要素の関係

No	財務諸表等規則等や業法等の構成要素	XBRL の構成要素
1	財務諸表等規則等や業法等に基づく報告書	DTS (Discoverable Taxonomy Set)
2	財務諸表等規則等や業法等	タクソノミ
3	勘定科目又は報告項目	要素、名称リンク、参照リンク
4	様式(勘定科目又は報告項目間の関係)	表示リンク、計算リンク、定義リンク
5	様式の種類	拡張リンクロール

3. タクソノミフレームワークの構成

3-1 タクソノミの階層

本タクソノミフレームワークではタクソノミを階層化する。タクソノミの階層は、語彙層、関係層、企業別拡張層の三層で、それぞれの役割は図 1-4 の通りである。なお、各業種を含めたタクソノミの拡張関係については、「添付 1 EDINETで利用するタクソノミとインスタンス全体像」を参照。

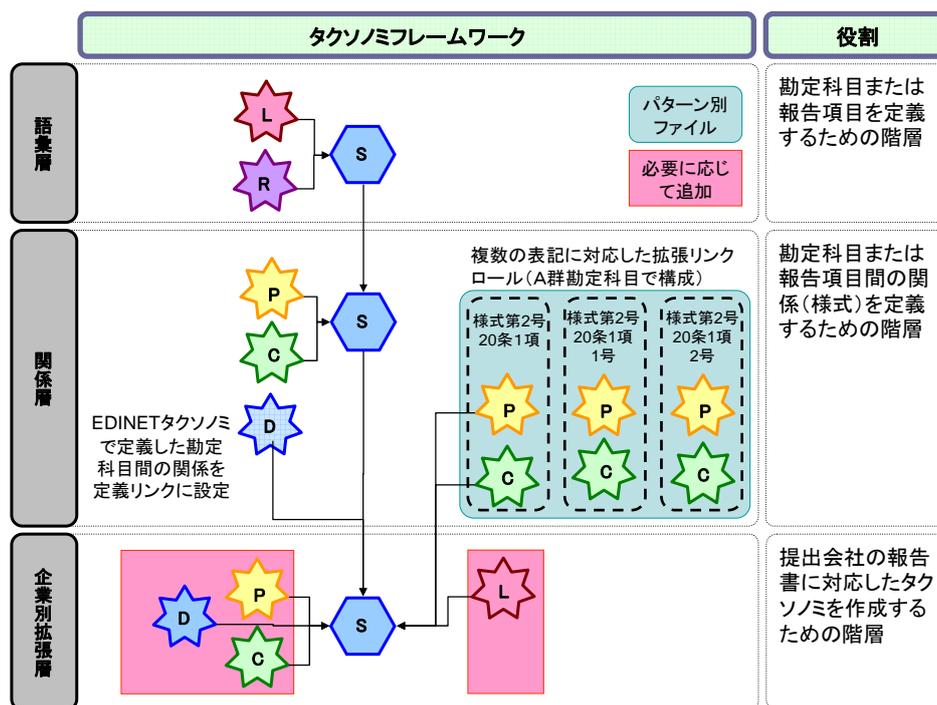


図 1-4 各層の役割

3-1-1 語彙層

勘定科目又は報告項目を定義する階層として語彙層を設ける。語彙層の役割は、勘定科目又は報告項目に関する情報を定義することにある。勘定科目又は報告項目間の関係については、この階層では定義しない。

また、語彙層は、A 群勘定科目、B 群勘定科目ともに、共通及び業種別に作成し、A 群勘定科目と B 群勘定科目のタクソノミは分けない。

なお、A 群勘定科目と B 群勘定科目の定義については「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」を参照。

語彙層を構成する語彙タクソノミで定義する内容は主に次の通りである。

① スキーマ

スキーマでは主に次の内容を定義する。詳細は、「3-2語彙層のスキーマの設定方法」を参照。

- 要素名
- 要素 id
- 勘定科目又は報告項目のデータ型(金額型、文字列型など)
- 代替グループ
- 貸借区分
- 期間時点区分
- 抽象区分
- 値が未設定の要素の報告書インスタンスへの出現の可否

② 名称リンク

名称リンクでは主に次の内容を定義する。詳細は、「3-3語彙層の名称リンクの設定方法」を参照。

- 勘定科目又は報告項目の日本語名称
- 勘定科目又は報告項目の英語名称

③ 参照リンク

参照リンクでは主に次の内容を定義する。詳細は、「3-4語彙層の参照リンクの設定方法」を参照。

- 勘定科目又は報告項目の財務諸表等規則等や業法等の根拠となる条文への参照

3-1-2関係層

勘定科目又は報告項目間の関係を定義する階層として関係層を設ける。関係層の役割は、勘定科目又は報告項目間の表示、計算等の関係を定義することにある。勘定科目又は報告項目そのものに関する内容については、この層で定義しない。また、関係層では関係リンクの他に、様式を表現する部品としてパターン別リンクベースファイルを提供する。

関係層を構成する関係タクソノミ、定義リンク、パターン別リンクベースで定義する内容は次の通りである。

① スキーマ

スキーマでは主に次の内容を定義する。詳細は、「3-5関係層のスキーマ設定方法」を参照。

- 語彙タクソノミのインポート情報
- 表示リンクと計算リンクの参照情報

② 表示リンク

表示リンクでは主に次の内容を定義する。詳細は、「3-6関係層の表示リンクの設定方法」を参照。

- 勘定科目又は報告項目間の表示上の親子関係
- 兄弟の勘定科目又は報告項目間の表示順序
- 名称リンクの標準ラベルではなく別のラベルに切り換えてラベル表示する設定 (preferredLabel を利用)

③ 計算リンク

計算リンクでは、勘定科目間の計算上の関係を定義する。詳細は、「3-7関係層の計算リンクの設定方法」を参照。

④ 定義リンク

定義リンクでは、主に次の2つに関する勘定科目又は報告項目間の関係を定義する。

- A群勘定科目に含まれる勘定科目の区分
- B群勘定科目に含まれる勘定科目の区分、A群勘定科目との親子関係等

また、定義リンクの拡張リンクロールを用いて、総額－純額の関係など、勘定科目間で共通的に存在する関係を定義する。詳細は、「3-8関係層の定義リンクの設定方法」を参照。

⑤ パターン別リンクベースファイル

各財務諸表の一部の表示方法は任意に選択可能であるため、財務諸表の表示方法やそれに伴う計算上の関係も多数存在する。そのすべてのパターンを網羅する拡張リンクロールを作成した場合、パターン数に比例してリンクベースファイルが肥大化する。そのため、任意に選択可能な部分については表示リンクと計算リンクを部品化し、パターン別リンクベースファイルとして定義し、提出会社が選択できるようにする。なお、パターン別リンクベースファイルは関係層のスキーマからは参照せず、企業別タクソノミから参照する。

パターン別リンクベースファイルは表示リンクと計算リンクで構成される。表示リンクと計算リンクの定義内容については上記②及び③を参照。

パターン別リンクベースファイルの一覧は、「添付3パターン別リンクベースファイル一覧」を参照。

3-1-3 企業別拡張層

提出会社の報告書を表現するための階層として企業別拡張層を設ける。提出会社は、語彙層及び関係層から構成されるEDINETタクソノミをインポートし、必要に応じて拡張して、各提出会社の報告書を表現する。企業別拡張層で規定される企業別タクソノミは、3-1-2関係層で記載のパターン別リンクベースファイルを選択するため必ず作成される。この階層では、EDINETタクソノミを基にして各提出会社の報告書を作成するために、表 1-3 の情報を定義する。なお、企業別タクソノミで拡張する内容に対する各リンクベースファイルの提出要否は表 1-3 の通りとする。

表 1-3 企業別タクソノミのリンクベースファイルの提出要否一覧

No	リンクベース名	設定する主な内容	拡張する内容毎の提出要否		
			要素追加	語彙利用※1	上書き※2
1	名称リンク	・企業別タクソノミで追加した勘定科目(要素)の日本語名称、英語名称 ※全ての名称リンクの上書きは禁止	◎	-	-
2	参照リンク	・EDINET タクソノミ側で提供されるため、提出会社側での提出は不要	×	×	×
3	表示リンク	・企業別タクソノミで追加した勘定科目(要素)と他の勘定科目(要素)との表示上の関係 ・EDINET タクソノミの勘定科目(要素)の表示上の関係の変更	◎	◎	◎
4	計算リンク	・企業別タクソノミで追加した勘定科目(要素)と他の勘定科目(要素)との加減算の関係 ・EDINET タクソノミの勘定科目(要素)の加減算の関係の変更	◎ ^注	◎	◎
5	定義リンク	・企業別タクソノミで追加した勘定科目(要素)と EDINET タクソノミの勘定科目(要素)との概念に関する関係	◎	-	-

凡例 ◎：必須 ×：不要 -：該当なし

※1：EDINET タクソノミの表示・計算リンクに設定されていない勘定科目を利用する場合

※2：EDINET タクソノミの表示・計算リンクの設定を上書きする場合

注：計算リンクを設定できない要素のみを追加した場合、不要

① スキーマ

スキーマでは次の内容を定義する。

- 報告書を作成するための関係タクソノミのインポート

<例>連結企業(一般商工業)では連結財務諸表タクソノミと個別財務諸表等タクソノミをインポートする。

<例>銀行では銀行・信託業連結財務諸表タクソノミと銀行・信託業財務諸表タクソノミをインポートする。但し、ホールディングスのような提出会社の場合、連結財務諸表用に連結財務諸表タクソノミをインポートするべき場合がある。つまり、連結と個別で同一の業種をインポートするとは限らない。

なお、他業種の同様式の複数の関係タクソノミはインポートしてはならない。

- 語彙タクソノミのインポート(複数業種を営む企業の場合)^注
- EDINET タクソノミに含まれない各提出会社独自の勘定科目又は報告項目
- パターン別リンクベースファイルへの参照
- EDINET タクソノミの定義リンクへの参照(必要に応じて)
- 企業別タクソノミの名称リンク、表示リンク、計算リンク、定義リンクへの参照
- 文書情報タクソノミのインポート

注：複数業種にまたがる提出会社が企業別タクソノミを作成する場合、主たる業種に対応した関係タクソノミをインポートして、企業別タクソノミを作成する。このときに、他の業種の関係タクソノミをインポートせず、他の業種の語彙タクソノミをインポートする。また、語彙タクソノミのインポートについて、提出会社と業種との関係に関する制限を設けない。なお、語彙タクソノミのインポート数については、制限を設けない。

<例>建設業の提出会社が、リース事業の語彙を利用して有価証券報告書を作成する場合
提出会社は企業別タクソノミを作成し、企業別タクソノミから建設業財務諸表タクソノミ(jpfr-cns-an)と建設業連結財務諸表タクソノミ(jpfr-cns-ac)をインポートする。また、リース事業財務諸表語彙タクソノミ(jpfr-t-lea)をインポートする。次に、必要なパターン別リンクベースファイルを参照する。建設業財務諸表語彙タクソノミ(jpfr-t-cns)や財務諸表等語彙タクソノミ(jpfr-t-cte)など、その他の必要なタクソノミは企業別タクソノミからインポートしたタクソノミによって間接的にインポートされ、DTSが完成する。インポート関係の概要は図 1-5 の通りとする。

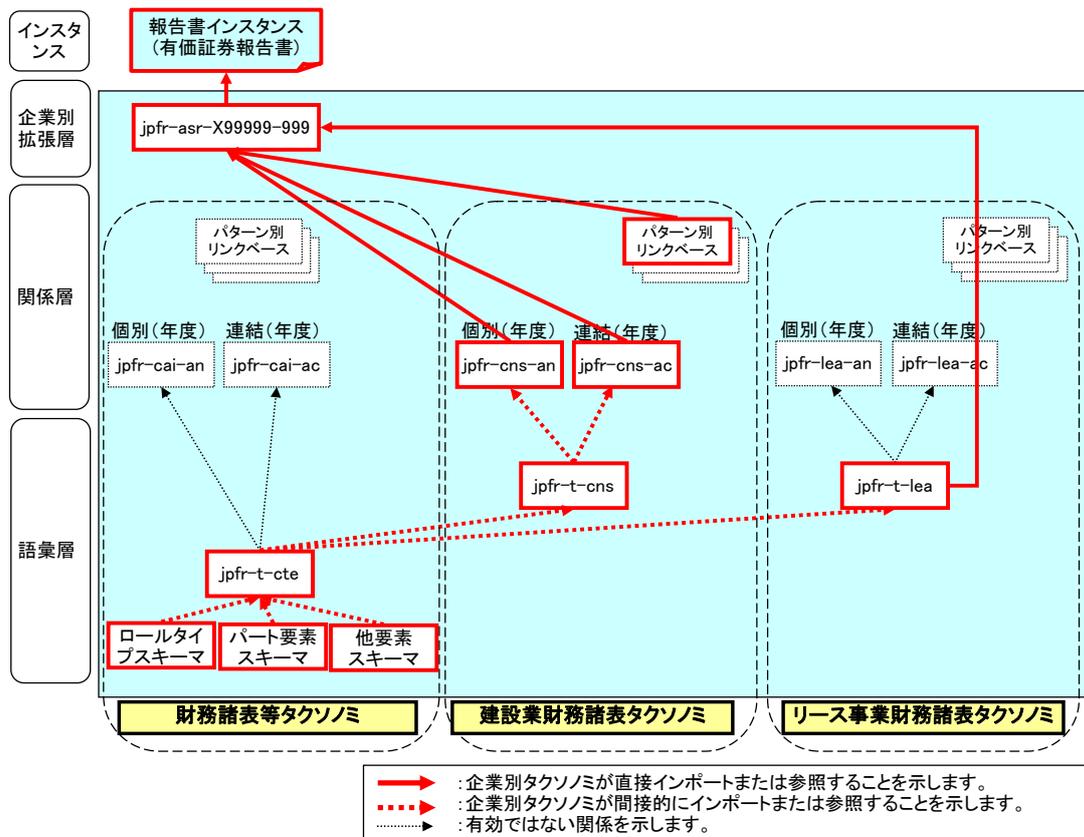


図 1-5 他の業種の語彙タクソノミをインポートする例

② 名称リンク

名称リンクでは、次の内容を定義する。

- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目の日本語名称
 - 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目の英語名称
- 語彙層の名称リンクで定義された表記の変更は禁止とする。

③ 参照リンク

参照リンクでは、財務諸表等規則等や業法等の根拠となる条文への参照情報を定義することが可能であるが、これは EDINET タクソノミで実装されるべき内容であるため、企業別拡張層でこの情報が定義されることはない。従って、企業別拡張層で参照リンクは使用しない。

④ 表示リンク

表示リンクでは、次の内容を定義する。

- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目と EDINET タクソノミ

の勘定科目又は報告項目との表示上の関係

- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目間の表示上の関係
- EDINET タクソノミの勘定科目又は報告項目の表示上の関係の変更
- 名称リンクの標準ラベルではなく別のラベルに切り換えてラベル表示する設定 (preferredLabel を利用)

なお、表示上の関係とは、勘定科目又は報告項目間の親子関係と兄弟間の順序関係を意味する。

⑤ 計算リンク

計算リンクでは、次の内容を定義する。

- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目と EDINET タクソノミの勘定科目又は報告項目との計算上の関係
- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目間の計算上の関係
- EDINET タクソノミの勘定科目又は報告項目の計算上の関係の変更

ここで、計算上の関係とは、期間・時点の区分が同一の勘定科目間の加算又は減算の関係を意味する。

⑥ 定義リンク

定義リンクでは、次の内容を定義する。

- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目が、EDINET タクソノミに定義されたどの区分に属するかの情報
- 企業別拡張層のスキーマで追加された勘定科目又は報告項目に関する、総額－純額の関係や総額－減価償却累計額等、共通的な関係(拡張リンクロールを用いて定義する)

なお、EDINET タクソノミの勘定科目又は報告項目間の定義を変更することは、XBRL データの利用者が、勘定科目又は報告項目を誤解するおそれがあるため認めない。

3-1-4その他

本タクソノミフレームワークには、語彙層、関係層、企業別拡張層に含まれないパート要素スキーマ、ロールタイプスキーマ、他要素スキーマが存在する。

パート要素スキーマ、ロールタイプスキーマ、他要素スキーマは、財務諸表等語彙タクソノミと、財務諸表等語彙タクソノミをインポートしていない業種別財務諸表語彙タクソノミにインポートされる。

なお、財務諸表等語彙タクソノミとは財務諸表等規則等に対応する語彙タクソノミ、業種別財務諸表語彙タクソノミとは業法等に対応する語彙タクソノミのことである。

① パート要素スキーマ

パート要素スキーマとは、参照リンクで財務諸表等規則等や業法等の根拠となる条文への項番を指定する際に利用されるパート要素が定義されたスキーマである。このスキーマは、FRTA で提示されているファイル(ref-2006-02-27.xsd)であり、本タクソノミフレームワークでもこのファイルを利用する。

また、FRTA 2.1.21 に従い、ref-2006-02-27.xsd に定義されている以外のパート要素は利用しないものとする。

② ロールタイプスキーマ

ロールタイプスキーマとは、拡張リンクロールなどで利用されるロールの定義とアークロールの定義を含むスキーマである。本タクソノミフレームワークで利用されるロールタイプ及びアークロールタイプを一元的に管理するため、各タクソノミにロールタイプ及びアークロールタイプを定義することはしない。

③ 他要素スキーマ

他要素スキーマとは、アイテム、タプル、パートではない要素を設定するためのスキーマである。他要素スキーマでは、主にコンテキストのシナリオ要素とセグメント要素を設定するために必要な要素が設定される。

また、FRTA 4.2.1 に従い、タクソノミとパート要素スキーマから独立させ、定義する。

3-2 語彙層のスキーマの設定方法

3-2-1 スキーマの設定単位

財務諸表等語彙タクソノミと業種別財務諸表語彙タクソノミを分離する。つまり、業種別にスキーマを設定する。また、A群勘定科目とB群勘定科目を区別する用途ではスキーマは分けない。

連結と個別の語彙(要素)は同じとする。従って、連結と個別は同一スキーマで設定する。

決算期、四半期と中間期は同じ語彙(要素)とする。従って、決算期、四半期と中間期は同一スキーマで設定する。

また、業種別財務諸表語彙タクソノミでは各業種特有の勘定科目のみを定義し、財務諸表等規則等と重複する勘定科目は再定義しない。

語彙タクソノミを設定する業種は、表 1-4 の通りである。(以下、語彙タクソノミを設定する業種のことを、業種(語彙)という)。識別子の説明は、表 1-23 を参照。

表 1-4 語彙タクソノミを設定する業種(語彙)

No	業種(語彙)	語彙タクソノミ	識別子
1	商工業・その他、共通	財務諸表等語彙タクソノミ	cte
2	建設業	建設業財務諸表語彙タクソノミ	cns
3	造船業	造船業財務諸表語彙タクソノミ	ves
4	銀行・信託業	銀行・信託業財務諸表語彙タクソノミ	bnk
5	建設保証業	建設保証業財務諸表語彙タクソノミ	cna
6	第一種金融商品取引業 (有価証券関連業)	第一種金融商品取引業財務諸表語彙タクソノミ	sec
7	保険業	保険業財務諸表語彙タクソノミ	ins
8	鉄道事業	鉄道事業財務諸表語彙タクソノミ	rwy
9	海運事業	海運事業財務諸表語彙タクソノミ	wat
10	高速道路事業	高速道路事業財務諸表語彙タクソノミ	hwy
11	電気通信事業	電気通信事業財務諸表語彙タクソノミ	elc
12	電気事業	電気事業財務諸表語彙タクソノミ	ele
13	ガス事業	ガス事業財務諸表語彙タクソノミ	gas
14	資産流動化業	資産流動化業財務諸表語彙タクソノミ	liq
15	投資運用業(投資信託 委託会社)	投資運用業財務諸表語彙タクソノミ	ivt
16	投資業(投資法人)	投資業財務諸表語彙タクソノミ	inv
17	特定金融業	特定金融業財務諸表語彙タクソノミ	spf

No	業種(語彙)	語彙タクソノミ	識別子
18	社会医療法人	社会医療法人財務諸表語彙タクソノミ	med
19	学校法人	学校法人財務諸表語彙タクソノミ	edu
20	商品先物取引業	商品先物取引業財務諸表語彙タクソノミ	cmd
21	リース事業	リース事業財務諸表語彙タクソノミ	lea
22	投資信託受益証券	投資信託受益証券財務諸表語彙タクソノミ	fnd

3-2-2 語彙タクソノミ間のインポートの設定

財務諸表等語彙タクソノミに含まれる勘定科目が業種別の財務諸表で利用される場合、業種別財務諸表語彙タクソノミが財務諸表等語彙タクソノミをインポートし、利用されない場合、インポートをしない。

財務諸表等語彙タクソノミと業種別財務諸表語彙タクソノミのインポート関係は、表1-5の通りである。

表 1-5 語彙タクソノミ間の関係

No	語彙タクソノミ	インポート関係
1	財務諸表等語彙タクソノミ	—
2	建設業財務諸表語彙タクソノミ	○
3	造船業財務諸表語彙タクソノミ	○
4	銀行・信託業財務諸表語彙タクソノミ	○
5	建設保証業財務諸表語彙タクソノミ	○
6	第一種金融商品取引業財務諸表語彙タクソノミ	○
7	保険業財務諸表語彙タクソノミ	○
8	鉄道事業財務諸表語彙タクソノミ	○
9	海運事業財務諸表語彙タクソノミ	○
10	高速道路事業財務諸表語彙タクソノミ	○
11	電気通信事業財務諸表語彙タクソノミ	○
12	電気事業財務諸表語彙タクソノミ	○
13	ガス事業財務諸表語彙タクソノミ	○
14	資産流動化業諸表語彙タクソノミ	○
15	投資運用業財務諸表語彙タクソノミ	○
16	投資業財務諸表語彙タクソノミ	○
17	特定金融業財務諸表語彙タクソノミ	○
18	社会医療法人財務諸表語彙タクソノミ	○
19	学校法人財務諸表語彙タクソノミ	○

No	語彙タクソノミ	インポート関係
20	商品先物取引業財務諸表語彙タクソノミ	○
21	リース事業財務諸表語彙タクソノミ	○
22	投資信託受益証券財務諸表語彙タクソノミ	○

凡例 ○：業種別財務諸表語彙タクソノミが財務諸表等語彙タクソノミをインポートする。
 ×：業種別財務諸表語彙タクソノミが財務諸表等語彙タクソノミをインポートしない。
 -：該当しない。

3-2-3要素名(element名)

FRTA 2.1.4に従い、LC3(Label Camel Case Concatenation法)により命名する。

LC3とは、連続する英単語を各単語の先頭文字を大文字、二文字目以降を小文字とし、各単語を結合する方法である。

<例>LC3

英語名称(標準ラベル) “Accumulated depreciation”

英語名称(冗長ラベル) “Accumulated depreciation-buildings and structures”

要素名：“AccumulatedDepreciationBuildingsAndStructures”

要素名は英語の冗長ラベル(ラベルロールが

<http://www.xbrl.org/2003/role/verboselabel>)に対してLC3を適用し生成するものとする。

3-2-4要素 id(element id)

FRTA 2.1.5 に従い、次のルールにより命名する。

{名前空間プレフィックス} + “_” + {要素名}

<例>要素 id

名前空間プレフィックス “jpfr-t-cte”

要素名 “AccumulatedDepreciationBuildingsAndStructures” の場合

→ 要素 id “jpfr-t-cte_AccumulatedDepreciationBuildingsAndStructures”

3-2-5データ型(type)

勘定科目又は報告項目の特性を考慮し、表 1-6 の通り設定する。

表 1-6 要素のデータ型一覧

No	データ型	説明	利用例
1	monetaryItemType	金額。主に勘定科目で利用する。	「営業利益」
2	stringItemType	文字列。見出しの項目で利用する。	「貸借対照表」

3-2-6代替グループ(substitutionGroup 属性)

勘定科目又は報告項目の特性を考慮し、表 1-7 の通り設定する。

表 1-7 代替グループ一覧

No	設定値	説明	利用例
1	item	構造を持たないので item を使用する。	「営業利益」

3-2-7貸借区分(balance 属性)

データ型が “monetaryItemType” の勘定科目又は報告項目に対して表 1-8 の通り設定する。貸借区分が特定可能な勘定科目又は報告項目については、設定必須とする。

表 1-8 貸借区分一覧

No	設定値	説明	利用例
1	debit	借方	「流動資産」
2	credit	貸方	「営業利益」
3	(設定なし)	貸方、借方のどちらでもない。又は特定が困難。	「有価証券の取得による支出」

3-2-8期間時点区分(periodType 属性)

期間時点区分を表 1-9 の通り設定する。全ての勘定科目又は報告項目に対して設定必須とする。

表 1-9 期間時点区分一覧

No	設定値	説明	利用例
1	duration	期間。ある一時点において事実とならない概念に設定する。また、期間を継続して適用されるような概念についても設定する。期間か時点か判別できないものは期間を設定する。	「営業利益」
2	instant	時点。ある一時点において事実となりうる概念に設定する。	「流動資産」

3-2-9抽象区分(見出し区分)(abstract 属性)

抽象区分を表 1-10 の通り設定する。全ての勘定科目又は報告項目に対して設定必須とする。

表 1-10 抽象区分一覧

No	設定値	説明	利用例
1	true	見出しを意味する項目。又は、報告書インスタンスに出現することができない抽象的な要素。	「貸借対照表」
2	false	報告書インスタンスに出現することができる具体的な要素。	「現金及び預金」

3-2-10 未設定可否区分(nillable 属性)

未設定可否区分を表 1-11 の通り設定する。全ての勘定科目又は報告項目に対して設定必須とする。

なお、FRTA 2.1.6 に従い、全ての勘定科目又は報告項目の nillable 属性は true に設定する。

表 1-11 未設定可否区分一覧

No	設定値	説明	利用例
1	true	値がないということを表現できるようにする。	「流動資産」 流動資産は値が 0 ではなく、該当する値がないということを表現するためには、インスタンスにおいて <CurrentAssets xsi:nil="true"/>と入力する。

3-3 語彙層の名称リンクの設定方法

3-3-1 設定するラベルロール

表 1-12 に記載するラベルロールのラベルを日本語・英語それぞれ用意する。

表 1-12 ラベルロール一覧

No	名称	ラベルロール	説明	要否	言語
1	標準ラベル	label ^{※1}	標準に設定するラベル。	◎	日・英
2	合計ラベル	totalLabel ^{※1}	合計を示すラベル。 <例>資産合計	○	日・英
3	冗長ラベル	verboseLabel ^{※1}	全ての要素で一意のラベル。	◎	日・英
4	期首ラベル	periodStartLabel ^{※1}	期首を表すラベル。 <例>現金及び現金同等物の期首残高	○	日・英
5	期末ラベル	periodEndLabel ^{※1}	期末を表すラベル。 <例>現金及び現金同等物の期末残高	○	日・英
6	負値ラベル	negativeLabel ^{※1}	負値のラベル。 <例>営業損失 (△)	○	日・英
7	正值負値ラベル	positiveOrNegativeLabel ^{※2}	複数の期で正值と負値が混在することを表すラベル。 <例>営業利益又は営業損失 (△)	○	日・英
8	ドキュメンテーション	documentation ^{※1}	要素に関する説明事項を記載するラベル。 ※冗長ラベルと同じ値を設定する。	◎	日・英

※1：“http://www.xbrl.org/2003/role/”に続くロールの名称のみを記載

※2：“http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/”に続くロールの名称のみを記載

凡例 ◎：必須 ○：要素の性質に応じて設定

なお、各ラベルロールの設定に関する詳細は、「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」を参照。

3-3-2 商工業・その他、共通語彙に対する業種ラベルのラベルロール

商工業・その他、共通語彙で業種ラベルを使用する場合、

http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{業種}/role/{ラベルロール}を追加で設定し、商工業・その他、共通ラベルと業種ラベルをpreferredLabel属性で切り替える。その際、設定するラベルロールの一覧は表 1-13 の通りとする。また、保存の際は、上記ラベルロールのラベルは通常のラベルリンクベースファイルとは別ファイルに保存する。ラベルリンクベースファイルの詳細については5-5-1語彙層を参照。

表 1-13 業種のラベルロール一覧

No	名称	ラベルロール	説明	要否	言語
1	標準ラベル	label	標準に設定するラベル。 ＜例＞現金預金	◎	日・英
2	合計ラベル	totalLabel	合計を示すラベル。 ＜例＞資産の部合計	○	日・英
3	冗長ラベル	verboseLabel	全ての要素で一意のラベル。	◎	日・英
4	負値ラベル	negativeLabel	負値のラベル。 ＜例＞当年度純損失	○	日・英
5	正值負値ラベル	positiveOrNegativeLabel	複数の期で正值と負値が混在することを表すラベル。 ＜例＞当年度純利益又は当年度純損失（△）	○	日・英
6	ドキュメンテーション	documentation	要素に関する説明事項を記載するラベル。	◎	日・英

※：“http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{業種}/role/”に続くロールの名称のみを記載。{業種}の設定は表 1-23 を参照。

凡例 ◎：商工業・その他、共通語彙で業種ラベルを使用する場合のみ必須 ○：要素の性質に応じて設定

<例1>

建設業の業種ラベルを表示する場合、建設業の業種のラベルロールを表示リンクの preferredLabel 属性に設定する。

- 要素名：CashAndDeposits には、建設業財務諸表語彙タクソノミで上記ラベルロールにラベルが設定されているため、「現金預金」が表示される。

<例2> 建設業ラベルを使用する際の参照関係とラベルリンクベースのファイル名

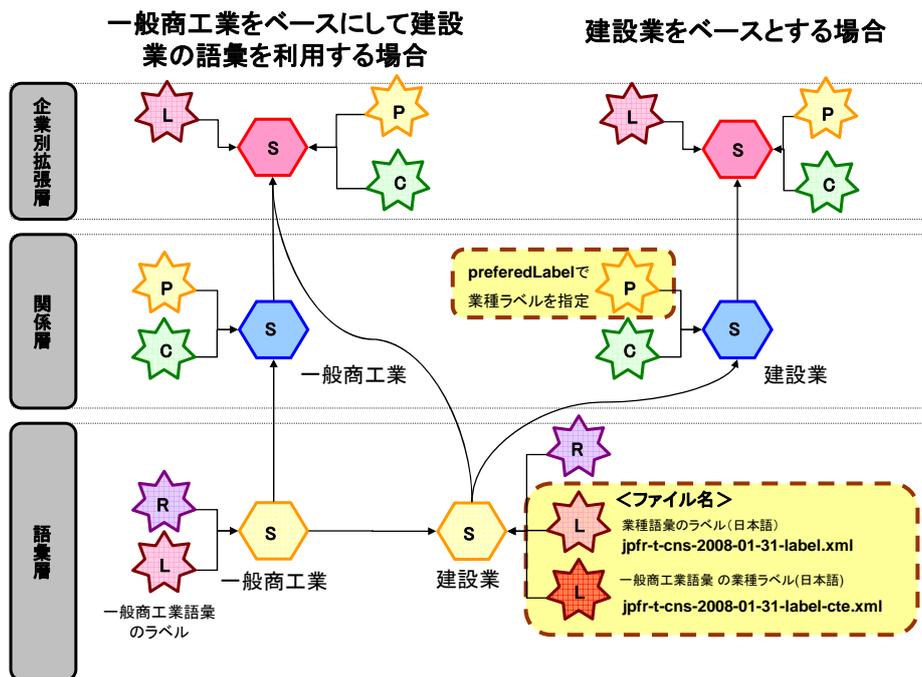


図 1-6 建設業ラベルを使用する際の参照関係とラベルリンクベースのファイル名

3-3-3 拡張リンクロールによる名称の切替

表示すべきラベルが関係層によって異なる要素に対しては、該当する拡張リンクロールを名称リンクに設定し、該当するラベルを設定する。

拡張リンクロールを名称リンクに設定した場合、設定するラベルロールは、「3-3-1 設定するラベルロール」を、拡張リンクロールは、「添付4 ロール一覧」をそれぞれ参照。

<例>

要素名：NetIncome

条件：XBRL の仕様で標準に提供される拡張リンクロールを名称リンクに設定

拡張リンクロール：<http://www.xbrl.org/2003/role/link>

設定するラベル：

- ・標準ラベル：当期純利益
- ・負値ラベル：当期純損失（△）

条件：中間財務諸表用名称の拡張リンクロールを名称リンクに設定

拡張リンクロール：

<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/ConsolidatedInterim>

設定するラベル：

- ・標準ラベル：中間純利益
- ・負値ラベル：中間純損失（△）

表示に関する補足説明：

タクソノミ又はインスタンス表示時、適切な名称リンクの拡張リンクロールを選択して表示する。選択した拡張リンクロールに該当するラベルがない場合、標準の拡張リンクロールのラベルで表示する。

<例>

中間財務諸表を表示する場合、中間財務諸表用名称の拡張リンクロールを選択する。

- 要素名：NetIncome に対しては、上記拡張リンクロールが設定済みなので、拡張リンクロールのラベル(標準ラベル：中間純利益 等)を表示する。
- 要素名：CashAndDeposits に対しては、上記拡張リンクロールの設定がないので、拡張リンクロールが標準のラベル(標準ラベル：現金及び預金 等)を表示する。

3-4 語彙層の参照リンクの設定方法

3-4-1 利用するパート要素と財務諸表等規則等又は業法等との対応

FRTA で規定されているパート要素のうち、本タクソノミフレームワークで利用する要素

及び設定値については、「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」参照。

3-5 関係層のスキーマ設定方法

3-5-1 スキーマの設定単位

業種(語彙)別に関係タクソノミのスキーマを分ける。但し、表 1-14 に示す業種については、関係層の業種を、語彙層の業種より細分化する。(以下、関係タクソノミを設定する業種のことを、業種(関係)という)

表 1-14 関係層で細分化する業種と対応する語彙層の業種の関係

No	業種(関係)	業種(語彙)
1	銀行・信託業	銀行・信託業
2	銀行・信託業(特定取引勘定設置銀行)	
3	生命保険業	保険業
4	損害保険業	

また、一般商工業については商工業・その他、共通の業種(語彙)が対応する。

上記に従い、業種(関係)と関係タクソノミとの対応は、表 1-15 の通りである。識別子の説明は表 1-24 を参照。

表 1-15 業種(関係)と関係タクソノミとの対応

No	業種(関係)	関係タクソノミ	識別子
1	一般商工業	財務諸表等タクソノミ	cai
2	建設業	建設業財務諸表タクソノミ	cns
3	造船業	造船業財務諸表タクソノミ	ves
4	銀行・信託業	銀行・信託業財務諸表タクソノミ	bk1
5	銀行・信託業(特定取引勘定設置銀行)	銀行・信託業(特定取引勘定設置銀行)財務諸表タクソノミ	bk2
6	建設保証業	建設保証業財務諸表タクソノミ	cna
7	第一種金融商品取引業(有価証券関連業)	第一種金融商品取引業財務諸表タクソノミ	sec

No	業種(関係)	関係タクソノミ	識別子
8	生命保険業	生命保険業財務諸表タクソノミ	in1
9	損害保険業	損害保険業財務諸表タクソノミ	in2
10	鉄道事業	鉄道事業財務諸表タクソノミ	rwy
11	海運事業	海運事業財務諸表タクソノミ	wat
12	高速道路事業	高速道路事業財務諸表タクソノミ	hwy
13	電気通信事業	電気通信事業財務諸表タクソノミ	elc
14	電気事業	電気事業財務諸表タクソノミ	ele
15	ガス事業	ガス事業財務諸表タクソノミ	gas
16	資産流動化業	資産流動化業財務諸表タクソノミ	liq
17	投資運用業(投資信託委託会社)	投資運用業財務諸表タクソノミ	ivt
18	投資業(投資法人)	投資業財務諸表タクソノミ	inv
19	特定金融業	特定金融業財務諸表タクソノミ	spf
20	社会医療法人	社会医療法人財務諸表タクソノミ	med
21	学校法人	学校法人財務諸表タクソノミ	edu
22	商品先物取引業	商品先物取引業財務諸表タクソノミ	cmd
23	リース事業	リース事業財務諸表タクソノミ	lea
24	投資信託受益証券	投資信託受益証券財務諸表タクソノミ	fnd

さらに、表 1-15 の各関係タクソノミに対して次の要素でスキーマを分ける。

- 連結用、個別用
- 決算期用、四半期用、中間期用

但し、業種(関係)によっては連結用、四半期用等のタクソノミが設定されていない場合がある。関係タクソノミの一覧は、「添付2タクソノミ一覧と根拠となる法令等について」を参照。

3-5-2インポートの設定

関係層のスキーマでは、対応する語彙層のタクソノミをインポートする。「3-2-1スキーマの設定単位」及び「3-2-2語彙タクソノミ間のインポートの設定」から、関係層のスキーマで明示的にインポートする語彙層のタクソノミは表 1-16 の通りである。(各業種に対応する関係タクソノミは、財務諸表等規則等に対応する関係タクソノミ(財務諸表等タクソノミ)をインポートしない。)

表 1-16 関係タクソノミがインポートする語彙タクソノミ

No	業種(関係)	関係タクソノミ	語彙タクソノミ
1	一般商工業	財務諸表等タクソノミ	財務諸表等語彙タクソノミ
2	建設業	建設業財務諸表タクソノミ	建設業財務諸表語彙タクソノミ
3	造船業	造船業財務諸表タクソノミ	造船業財務諸表語彙タクソノミ
4	銀行・信託業	銀行・信託業財務諸表タクソノミ	銀行・信託業財務諸表語彙タクソノミ
5	銀行・信託業 (特定取引勘定設置銀行)	銀行・信託業(特定取引勘定設置銀行)財務諸表タクソノミ	銀行・信託業財務諸表語彙タクソノミ
6	建設保証業	建設保証業財務諸表タクソノミ	建設保証業財務諸表語彙タクソノミ
7	第一種金融商品取引業 (有価証券関連業)	第一種金融商品取引業財務諸表タクソノミ	第一種金融商品取引業財務諸表語彙タクソノミ
8	生命保険業	生命保険業財務諸表タクソノミ	保険業財務諸表語彙タクソノミ
9	損害保険業	損害保険業財務諸表タクソノミ	保険業財務諸表語彙タクソノミ
10	鉄道事業	鉄道事業財務諸表タクソノミ	鉄道事業財務諸表語彙タクソノミ
11	海運事業	海運事業財務諸表タクソノミ	海運事業財務諸表語彙タクソノミ
12	高速道路事業	高速道路事業財務諸表タクソノミ	高速道路事業財務諸表語彙タクソノミ
13	電気通信事業	電気通信事業財務諸表タクソノミ	電気通信事業財務諸表語彙タクソノミ
14	電気事業	電気事業財務諸表タクソノミ	電気事業財務諸表語彙タクソノミ
15	ガス事業	ガス事業財務諸表タクソノミ	ガス事業財務諸表語彙タクソノミ
16	資産流動化業	資産流動化業財務諸表タクソノミ	資産流動化業財務諸表語彙タクソノミ
17	投資運用業 (投資信託委託会社)	投資運用業財務諸表タクソノミ	投資運用業財務諸表語彙タクソノミ
18	投資業(投資法人)	投資業財務諸表タクソノミ	投資業財務諸表語彙タクソノミ

No	業種(関係)	関係タクソノミ	語彙タクソノミ
19	社会医療法人	社会医療法人財務諸表タクソノミ	社会医療法人財務諸表語彙タクソノミ
20	学校法人	学校法人財務諸表タクソノミ	学校法人財務諸表語彙タクソノミ
21	特定金融業	特定金融業財務諸表タクソノミ	特定金融業財務諸表語彙タクソノミ
22	商品先物取引業	商品先物取引業財務諸表タクソノミ	商品先物取引業財務諸表語彙タクソノミ
23	リース事業	リース事業財務諸表タクソノミ	リース事業財務諸表語彙タクソノミ
24	投資信託受益証券	投資信託受益証券財務諸表タクソノミ	投資信託受益証券財務諸表語彙タクソノミ

3-6 関係層の表示リンクの設定方法

3-6-1 様式の設定

関係層の表示リンクでは、財務諸表等規則等や業法等で定められている様式のうち、「添付4 ロール一覧」に記載している財務諸表を対象とする。例えば、EDINETにおける内国会社の連結財務諸表規則の場合、次の表示リンクを設定する。

- 様式第四号 連結貸借対照表
- 様式第五号 連結損益計算書
- 様式第六号 連結株主資本等変動計算書
- 様式第七号 連結キャッシュ・フロー計算書 直接法
- 様式第八号 連結キャッシュ・フロー計算書 間接法

また、各様式に複数の表記方法について認められている場合、その表記方法ごとに表示リンクを設定する。

<例>財務諸表等規則 第二十条

流動資産に属する資産に係る引当金は、当該各資産科目に対する控除科目として、当該各資産科目別に貸倒引当金その他当該引当金の設定目的を示す名称を付した科目をもって掲記しなければならない。但し、次の各号に掲げる方法によることを妨げない。

- 一 当該引当金を、当該各資産科目に対する控除科目として一括して掲記する方法
 - 二 当該引当金を当該各資産の金額から直接控除し、その控除残高を当該各資産の金額として表示する方法
- 2 前項第二号の場合において、当該引当金は当該各資産科目別に又は一括して注記しなければならない。

なお、拡張リンクロールの詳細については、「5-3 拡張リンクロール・リソースロール」を参照。

表示リンクで設定する内容の詳細については、「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」を参照。

3-6-2 前期と異なる表記の設定方法

財務諸表等規則等、又は業法等の改正により、改正前と改正後の表記を同一の拡張リンクロールで表現できない財務諸表に対しては、前期と当期とで拡張リンクロールを分けて設定できる。

但し、前期が改正後となった提出会社の場合、改正前用の拡張リンクロールは不要であることから、提出会社が企業別タクソノミで改正前用の拡張リンクロールを prohibited する。同様に前期、当期とも改正前となった提出会社の場合、改正後用の拡張リンクロール

は不要であることから、改正後用の拡張リンクロールを prohibited する。

なお、表示リンクの拡張リンクロールの名称については、「5-3-2 表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロール」を参照。

3-6-3表示リンクによる勘定科目の名称の設定

期首、期末及び合計を表す科目等、表示上の関係から標準ラベル以外のラベルに切り替えが必要な場合、表示リンクの preferredLabel 属性を利用する。その場合、preferredLabel属性に任意のラベルロールを設定し、表現することとする。ラベルロールの詳細については「3-3 語彙層の名称リンクの設定方法」を参照。

3-7 関係層の計算リンクの設定方法

3-7-1様式の設定

関係層の計算リンクでは、財務諸表等規則等や業法等で定められている様式のうち、「添付4 ロール一覧」に明記している財務諸表を対象とする。例えば、連結財務諸表規則の場合、次の計算リンクを設定する。但し、期間・時点の区分が異なる勘定科目間の加減算関係については、計算リンクを設定しない。

- 様式第四号 連結貸借対照表
- 様式第五号 連結損益計算書
- 様式第六号 連結株主資本等変動計算書
- 様式第七号 連結キャッシュ・フロー計算書 直接法
- 様式第八号 連結キャッシュ・フロー計算書 間接法

また、各様式に複数の表記方法が認められている場合、その表記方法ごとに計算リンクを設定する。

なお、拡張リンクロールの詳細については、「5-3拡張リンクロール」を参照。

計算リンクで定義する内容の詳細については、「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」を参照。

3-7-2前期と異なる加減算関係の設定方法

財務諸表等規則等、又は業法等の改正により、改正前と改正後の加減算関係を同一の拡張リンクロールで表現できない財務諸表に対しては、前期と当期とで拡張リンクロールを分けて設定する。

但し、前期が改正後となった提出会社の場合、改正前用の拡張リンクロールは不要であることから、提出会社が企業別タクソノミで改正前用の拡張リンクロールを prohibited する。同様に前期、当期とも改正前となった提出会社の場合、改正後用の拡張リンクロール

は不要であることから、改正後用の拡張リンクロールを prohibited する。

なお、計算リンクの拡張リンクロールの名称については、「5-3-2 表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロール」を参照。

3-8 関係層の定義リンクの設定方法

3-8-1 定義リンクの設定内容

関係層の定義リンクでは、主に次の2つに関する勘定科目間の関係を定義する。

- A群勘定科目に含まれる勘定科目の区分
- B群勘定科目に含まれる勘定科目の区分、A群勘定科目との親子関係等

これらの関係は、汎化-特化の関係を表現する次の標準アークロールを用いて定義する。

<http://www.xbrl.org/2003/arcrole/general-special>

また、関係層の定義リンクでは、表 1-17 の関係を拡張リンクのロール及びアークロールを用いて定義する。この場合、ロールの名称とアークロールの名称は一致して定義する。

表 1-17 定義リンクの拡張リンク

No	定義関係	ロール及びアークロール※	例
1	総額-純額	Gross-Net	建物-建物(純額)
2	総額-貸倒引当金	Gross-Allowance	受取手形-貸倒引当金 (受取手形)
3	総額-減価償却累計額	Gross-AccumulatedDepreciation	建物-減価償却累計額 (建物)
4	総額-減損損失累計額	Gross-AccumulatedImpairmentLoss	建物-減損損失累計額 (建物)
5	総額-減価償却累計額及び減損損失累計額	Gross-AccumulatedDepreciationAndImpairmentLoss	建物-減価償却累計額 (減価償却累計額及び減損損失累計額)

※：ロール及びアークロール欄は、次の文字列に続く部分のみ記載している

ロール：<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/>

アークロール：<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/arcrole/>

なお、定義リンクの拡張リンクロールの名称については、「5-3-3 定義リンクの拡張リンクロール」を、定義リンクのアークロールの名称については、「5-4 定義リンクにおけるアークロール」をそれぞれ参照。

定義リンクで定義する内容の詳細については、「タクソノミフレームワーク設計書(会計

編)」を参照。

3-8-2作成単位

関係層の定義リンクの作成単位は、業種(関係)毎に作成する。次の点に留意する。

- 関係層の中で、スキーマとは独立して作成する。
- 連結・個別、決算期・四半期・中間期で区別せずに作成する。

3-8-3想定利用方法

EDINET タクソノミの定義リンクを利用するには、提出会社は企業別タクソノミの中で必要に応じて参照する。また、提出会社で要素を追加した場合、企業別タクソノミの定義リンク中に、A 群勘定科目(又はB 群勘定科目)に対する区分を記載する。提出会社は、編集が終了し、提出直前に EDINET タクソノミの定義リンクへの参照を外すこととする。EDINET タクソノミの定義リンクの参照を外すことで、XBRL データの利用者のコンピュータの負荷を減らすことができる。また、企業別タクソノミのスキーマファイルの名称と EDINET タクソノミの定義リンクファイルの名称を考慮すると、企業別タクソノミが EDINET タクソノミの定義リンクを設定したままでは FRTA4.3.4 に違反する。このことから、企業別タクソノミでは EDINET タクソノミの定義リンクへの参照を外すこととする。

一方、XBRL データの利用者は提出会社が追加した要素に関する定義は企業別タクソノミの定義リンクにより理解可能である。また、標準的な情報である A 群勘定科目と B 群勘定科目の定義関係を調べる場合、その都度、EDINET タクソノミの定義リンクを参照して利用する。

定義リンクの設定内容と利用の関係を 図 1-7 に示す。

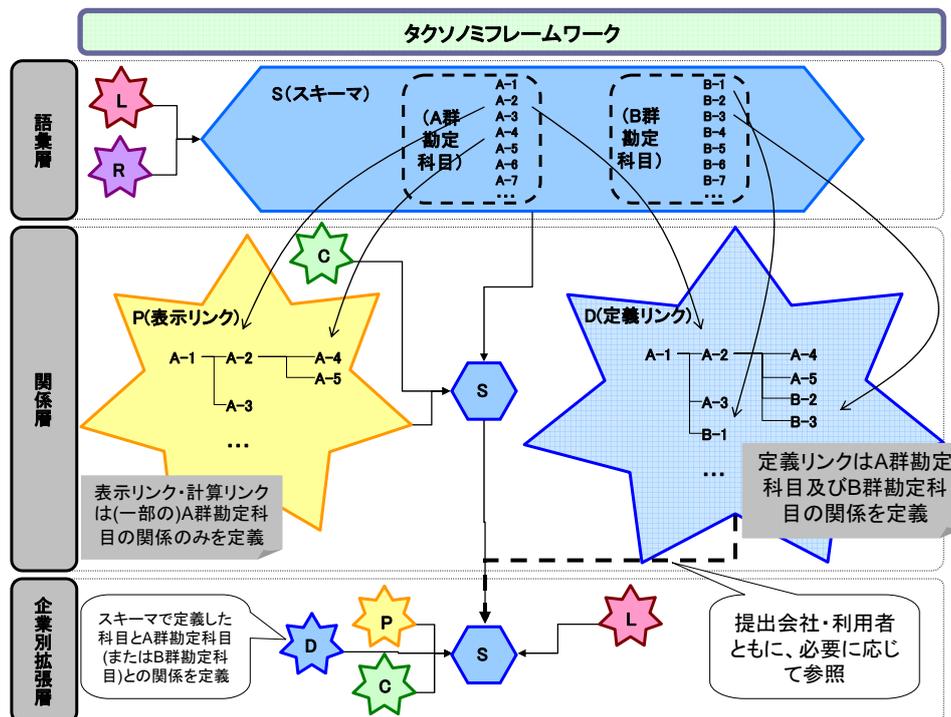


図 1-7 定義リンクの設定内容と利用

3-9 URL とインポート・参照関係

3-9-1 URL

EDINET タクソノミの各ファイルは、次の URL となるようファイルを配置する。

(\$jp は、http://info.edinet-fsa.go.jp/jp の URL の略。└はフォルダを示す。物理ファイルは {公開日} フォルダのみに格納。)

\$jp

└ fr

└ gaap

└ t 語彙層の EDINET タクソノミを格納(1)

└ r 関係層の EDINET タクソノミを格納(2)

└ o 文書情報タクソノミ、ロールタイプスキーマ、他要素スキーマを格納(3)

注：EDINET タクソノミで使用するパート要素スキーマの配置は、次の URL とする。

<http://www.xbrl.org/2006/ref-2006-02-27.xsd>

(1) 語彙層の EDINET タクソノミのフォルダ構成

\$jp

└ fr

└ gaap

└ t

└ cte^{※1}

| └ {公開日} 財務諸表等語彙タクソノミ^{※2}を格納

└ bnk^{※1}

| └ {公開日} 銀行・信託業財務諸表語彙タクソノミ^{※2}を格納

└ (他、業種別^{※1}に同様)

※1：語彙層の業種の識別子は表 1-4 を参照

※2：該当するスキーマファイル、参照リンクファイル、名称リンクファイル

(2) 関係層の EDINET タクソノミのフォルダ構成

\$jp

└ fr

└ gaap

└ r

└ cai^{*1}

| └ an

| | └ {公開日} 個別財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ qn

| | └ {公開日} 四半期財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ sn

| | └ {公開日} 中間財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ ac

| | └ {公開日} 連結財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ qc

| | └ {公開日} 四半期連結財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ sc

| | └ {公開日} 中間連結財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ cm

| | └ {公開日} an、qn、sn、ac、qc、sc で
共通に使われるファイル^{*3}を格納

|

└ bk1^{*1}

| └ an

| | └ {公開日} 銀行・信託業個別財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ qn

| | └ {公開日} 銀行・信託業四半期財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ sn

| | └ {公開日} 銀行・信託業中間財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ ac

| | └ {公開日} 銀行・信託業連結財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ qc

| | └ {公開日} 銀行・信託業四半期連結財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

| └ sc

| | └ {公開日} 銀行・信託業中間連結財務諸表タクソノミ^{*2}を格納

```

| └─ cm
|   └─ {公開日}      an、qn、sn、ac、qc、sc で
                        共通に使われるファイル※3を格納
|
└─ (他、業種別※1に同様)

```

※1：関係層の業種の識別子は表 1-15 を参照

※2：該当するスキーマファイル、表示リンクファイル、計算リンクファイル
(表示リンク及び計算リンクの各ファイルはパターン別リンクベースファイルを含む)

※3：現時点では、定義リンクファイルのみ

(3) ロールタイプスキーマ、他要素スキーマのフォルダ構成

\$jp

```

└─ fr
  └─ gaap
    └─ o
      └─ di
        | └─ {公開日}      文書情報タクソノミを格納
        └─ rt
          | └─ {公開日}      ロールタイプスキーマを格納
          └─ oe
            └─ {公開日}      他要素スキーマを格納

```

3-9-2 インポート・参照関係

EDINET タクソノミの各ファイルが別の EDINET タクソノミの各ファイルをインポート又は参照する場合、上記のフォルダ構成に基づいて相対パスでインポート又は参照する。

例1：語彙層からロールタイプスキーマ(別フォルダ)

財務諸表等語彙タクソノミのスキーマがロールタイプスキーマをインポートする場合
`schemaLocation="../../../o/rt/{公開日}/jpfr-rt-{公開日}.xsd"`

例2：関係層から語彙層(別フォルダ)

銀行・信託業個別財務諸表タクソノミのスキーマが銀行・信託業財務諸表語彙タクソノミのスキーマをインポートする場合
`schemaLocation="../../../t/bnk/{公開日}/jpfr-t-bnk-{公開日}.xsd"`

例 3：関係層から関係層(同一フォルダ)

銀行・信託業個別財務諸表タクソノミのスキーマが銀行・信託業個別財務諸表タクソノミの表示リンクファイルを参照する場合

href="jpfr-bk1-ac-{公開日}-presentation.xml"

企業別タクソノミが EDINET タクソノミの各ファイルをインポート又は参照する場合、上記 URL に基づいて絶対パスでインポート又は参照する。

例 1：企業別拡張層から関係層(タクソノミ) (絶対パス)

企業別タクソノミのスキーマが個別財務諸表タクソノミのスキーマをインポートする場合

schemaLocation="http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/r/cai/ac/{ 公 開 日 }/jpfr-cai-ac-{公開日}.xsd"

例 2：企業別拡張層から関係層(パターン別リンクベースファイル) (絶対パス)

企業別タクソノミのスキーマがパターン別リンクベースファイル(表示リンクファイル)を参照する場合

href="http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/r/cai/ac/{ 公 開 日 }/jpfr-cai-ac-{ 公 開 日 }-presentation-1-BS-01-CA-Doubtful-1-ByAccount.xml"

例 3：企業別拡張層から語彙層(絶対パス)

企業別タクソノミのスキーマがリース事業財務諸表語彙タクソノミのスキーマをインポートする場合(複数業種を営んでいる提出会社の場合)

schemaLocation="http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/t/lea/{ 公 開 日 }/jpfr-t-lea-{公開日}.xsd"

報告書インスタンスが企業別タクソノミを参照する場合、同一フォルダにあるものとして企業別タクソノミのスキーマファイル名のみを用いて参照する。

例：href="jpfr-asr-X99999-999-YYYY-MM-DD-99-YYYY-MM-DD.xsd"

3-10 企業別タクソノミと報告書インスタンスが複数になる場合について

原則として開示書類毎に企業別タクソノミと報告書インスタンスを1組ずつ作成するが、次の場合、1つの開示書類において複数の企業別タクソノミと報告書インスタンスを作成する。

3-10-1 1つの開示書類において、複数会社の財務諸表をXBRL形式で提出する場合

1つの開示書類において複数会社の財務諸表をXBRL形式で提出する場合、1つの報告書インスタンスに混在させず、財務諸表ごとに企業別タクソノミと報告書インスタンスを作成する。その際、報告書内の財務情報の記載順に企業別タクソノミ及び報告書インスタンスの{追番}に1ずつ足した数を振り、各企業別タクソノミ及び報告書インスタンスを区別する。企業別タクソノミ及び報告書インスタンスの命名規約は「5-1名前空間URI」、「5-5タクソノミファイル名」及び「5-6 インスタンスファイル名」を参照。

3-11 合併時等で複数会社の財務諸表を併記する場合の取扱い

本タクソノミフレームワークでは、合併時等で複数会社の財務諸表を1つの財務諸表中に併記する際、提出会社は自社以外の財務諸表も報告書インスタンスを分けずに、1つの報告書インスタンスで表現することができる。以下に、併記する場合の企業別タクソノミ、報告書インスタンスの作成時の注意事項を示す。なお、この方法で併記するためには自社と自社以外の企業(以下、併記企業)の勘定科目の並び(表示リンクの拡張リンクロール)及び加減算関係(計算リンクの拡張リンクロール)が同一であることが必要となる。

① 企業別タクソノミの作成時の注意事項

合併時等で併記する場合、報告書の列情報に自社と併記企業のどちらの財務情報かを示す名称が必要となる。その場合、企業別タクソノミにおいて、表 1-18 に示す要素(以下、「開示対象者の名称」)を追加する。

この要素を表示リンクにおいて、貸借対照表には時点を表す要素、それ以外の財務諸表には期間を表す要素を、各財務諸表要素の子要素の先頭に設定する。また、追加した「開示対象者の名称」要素は表示リンクにのみ設定し、計算リンク及び定義リンクには設定しない。

なおここでは、文書情報タクソノミにおける「開示対象者の名称」の要素は、使用しないものとする。

表 1-18 企業別タクソノミで設定する「開示対象者の名称」要素

項目	要素 1	要素 2
設定する財務諸表	貸借対照表	損益計算書等、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書等
要素名	EntityNameInstant	EntityNameDuration
データ型	stringItemType	stringItemType
代替グループ	item	item
期間時点区分 (periodType 属性)	instant	duration
抽象区分(abstract 属性)	false	false
未設定可否区分 (nillable 属性)	true	true
標準ラベル(日)	任意の名称とする <例>会社名	任意の名称とする <例>会社名
冗長ラベル(日)	標準ラベル+ (時点)	標準ラベル+ (期間)
ドキュメンテーション(日)	標準ラベル+ (時点)	標準ラベル+ (期間)
標準ラベル(英)	Entity name	Entity name
冗長ラベル(英)	Entity name instant	Entity name duration
ドキュメンテーション(英)	Entity name instant	Entity name duration

注：提出会社と併記企業の勘定科目の並び(表示リンクの拡張リンクロール)及び加減算関係(計算リンクの拡張リンクロール)が同一であることが必要である。

② 報告書インスタンスの作成時の注意事項

併記企業を記載するための併記企業用のコンテキストを作成し、併記企業のインスタンス値にコンテキストを設定する(コンテキストの作成方法については「5-8コンテキストの設定値」を参照)。また、企業別拡張で追加した「開示対象者の名称」要素に自社、併記企業用のコンテキストを設定し、インスタンス値に会社名を設定する。なお、「開示対象者の名称」要素と設定するコンテキストの組み合わせは表 1-19 を参照。

表 1-19 「開示対象者の名称」要素とコンテキストの組み合わせ

会社	コンテキスト	要素名	
		EntityNameInstant	EntityNameDuration
提出会社	前期期間	—	○
	前期末時点	○	—
併記企業	前期期間	—	○
	前期末時点	○	—
提出会社	当期期間	—	○
	当期末時点	○	—

(凡例) ○：値を設定する

—：値を設定しない

注：文書情報タクソノミの各“列”以下で指定するコンテキスト ID は、提出会社のコンテキスト ID のみを指定する。

4. インスタンス

4-1 報告書インスタンスの構成

4-1-1 報告書インスタンスのファイル構成

報告書インスタンスの作成単位は各報告書で1ファイルとする(連結と個別のインスタンスは一つにまとめて作成する。)。ファイルの命名規約は「5-6インスタンスファイル名」を参照。但し、「3-10企業別タクソノミと報告書インスタンスが複数になる場合について」に記載されている事例の場合、複数のファイルで提出とする。

4-1-2 インスタンス化の範囲

本タクソノミフレームワークが規定するタクソノミの範囲は有価証券報告書、四半期報告書、半期報告書、有価証券届出書の財務諸表部分についてである。そのため、報告書インスタンスが想定する範囲もタクソノミと同様とする。

4-1-3 タクソノミへの参照設定

本タクソノミフレームワークが想定する報告書インスタンスは、必ず各提出会社が作成する企業別タクソノミをスキーマとする。

4-1-4 コンテキストの定義

本タクソノミフレームワークが想定する報告書インスタンスのコンテキストでは、id 属性、エンティティ(entity)要素、期間時点(period)要素、シナリオ(scenario)要素を設定する。

id属性とエンティティ(entity)要素の設定項目は「5-8コンテキストの設定値」を参照。

個別財務諸表を表すには、シナリオ要素に他要素スキーマの「NonConsolidated(個別財務諸表)」の要素を設定する。また、連結財務諸表を指す場合、コンテキストにシナリオを設定しない。

4-1-5 ユニットの定義

本タクソノミフレームワークが想定する報告書インスタンスで利用するユニットは、表1-20の通りとする。

表 1-20 日本円のユニット

ユニット ID	JPY ^{※1}
Numerator	iso4217:JPY
Denominator	設定なし
説明	金額の単位として使用

※1：iso4217 の名前空間 URI は “http://www.xbrl.org/2003/iso4217”

4-1-6 インスタンス値の記載

本タクソノミフレームワークが想定する報告書インスタンスのインスタンス値は、各提出会社が作成する企業別タクソノミ、及び企業別タクソノミがインポートする EDINET タクソノミに従った値を設定する。

金額の精度は、報告する単位に合わせて decimals 属性を指定する。また、報告する単位未満の数値は 0 埋めしてインスタンス値を設定する。例えば、千円単位で報告する場合、decimals 属性に-3 を指定し、千円未満は 0 埋めした値を設定する。

monetaryItemType の要素にインスタンス値を設定する場合、JPY ユニットの参照する。

なお、財務諸表内の勘定科目に対して該当なしの状態、「-(バー)」を表現するには報告書インスタンスでは当該要素の xsi:nil 属性に true を設定する。

4-1-7 フットノートリンク

本タクソノミフレームワークが想定する報告書インスタンス中で注記番号を表現するには、フットノートリンクを利用する。

フットノートリンクの設定値は、表 1-21 の通りとする。

表 1-21 フットノートリンクの設定値

No	項目	設定値	説明
1	フットノートリンクの拡張リンクロール	表示リンクと同じ拡張リンクロールを設定する。	該当する財務諸表を表す。
2	フットノートリンクのリソースロール	表 1-34 参照。	フットノートの値が注記番号であることを表す。
3	フットノートリンクの値	注記番号を設定する。 1つのフットノートには1つの注記番号を対応付ける。	注記番号を表す。

表示リンクの拡張リンクロールの命名規約は、「5-3-2 表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロール」を参照。

拡張リンクロールの一覧は、「添付4 ロール一覧」を参照。

補足説明：注記をXBRL化した場合、財務諸表と関連する注記項目で同じ注記番号のフットノートを参照するようにする。

4-2 雛形インスタンスの構成

提供する雛形インスタンスの構成は、次の通りとする。

4-2-1 作成する雛形インスタンス

有価証券報告書、半期報告書、四半期報告書の雛形インスタンスを作成する。

4-2-2 雛形インスタンスのコンテキスト

FRIS 2.4.2により利用しないコンテキストは設定すべきではないとされている。従って、雛形インスタンスには、当該雛形インスタンスを利用する提出会社の多くが利用するコンテキストを設定する。例えば、提出会社によって異なる事業セグメント付きのコンテキストは定義しない。

4-2-3 雛形インスタンスのユニット

雛形インスタンスには、「4-1-5 ユニットの定義」に記載のユニットを設定する。

4-2-4 インスタンス値の記載

雛形インスタンスには、インスタンス値を記載しない。

4-2-5 フットノートリンク

雛形インスタンスには、フットノートリンクを記載しない。

5. 各種命名規約

5-1 名前空間 URI

タクソノミの名前空間URIは、FRTA 4.3.1 に従い、次の通り規定する。設定値を表 1-22 に示す。

{scheme}://{authority}/{path}

表 1-22 タクソノミの名前空間 URI 命名規約

No	項目	設定値	説明
1	{scheme}	http	スキームは http であることを示す。
2	{authority}	info.edinet-fsa. go.jp	管理名が EDINET であることを示す。
3	{path}	{jurisdiction}/{ reportingType}/{ accountingType}/ [{qualifier}]*{ versionDate}	path は jurisdiction、reportingType、 accountingType、qualifier、 versionDate からなることを示す。 ([{qualifier}]* は “ {qualifier} / ” が 0 回以上出現す ることを表す)
4	{jurisdiction}	jp	日本を表す。
5	{reportingType}/{acc ountingType}	fr/gaap	一般会計原則に従って財務内容を報 告することを表す。
6	{qualifier}	(後述)	各設定値を参照。
7	{versionDate}		

● 語彙タクソノミ

[http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{層}/{業種\(語彙\)}/{公開日}](http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{層}/{業種(語彙)}/{公開日})

設定値を表 1-23 に示す。

表 1-23 語彙タクソノミの名前空間 URI 命名規約

No	項目・規約	設定値	説明
1	{層} 英字1字とする。	t	語彙層 (term layer)のタクソノミであることを意味する。
2	{業種(語彙)} 各業種(語彙)の任意の英字3文字とする。	cte	商工業・その他、共通 (common term elements) 財務諸表語彙タクソノミは全業種で共通に利用する語彙であるため、共通とする。
3	他の業種(語彙)と重なってはならない。	cns	建設業 (construction)
4		ves	造船業 (steel vessel manufacturing and repair industry)
5		bnk	銀行・信託業 (bank)
6		cna	建設保証業 (construction assurance)
7		sec	第一種金融商品取引業 (有価証券関連業) (type I financial instruments business (securities related business))
8		ins	保険業 (insurance)
9		rwy	鉄道事業 (railway)
10		wat	海運事業 (water transportation)
11		hwy	高速道路事業 (highway)
12		elc	電気通信事業 (electricity communication)
13		ele	電気事業 (electricity)
14		gas	ガス事業 (gas)
15		liq	資産流動化業 (asset liquidation)
16		ivt	投資運用業 (投資信託委託会社) (invest management business (investment trust management company))
17		inv	投資業 (投資法人) (investment corporation)
18		spf	特定金融業 (specific finance)
19		med	社会医療法人 (medical corporation)
20		edu	学校法人 (educational corporation)

No	項目・規約	設定値	説明
21		cmd	商品先物取引業 (commodity future trading)
22		lea	リース事業 (lease)
23		fnd	投資信託受益証券 (fund)
24	{公開日}	YYYY-MM-DD	タクソノミの公開日

- 関係タクソノミ

[http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{層}/{業種\(関係\)}/{財務諸表等規則等}/{公開日}](http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{層}/{業種(関係)}/{財務諸表等規則等}/{公開日})

設定値を表 1-24 に示す。

表 1-24 関係タクソノミの名前空間 URI 命名規約

No	項目・規約	設定値	説明
1	{層} 英字 1 字とする。	r	関係層のタクソノミであることを意味する。
2	{業種(関係)}	cai	一般商工業 (commercial and industry)
3	各業種(関係)の任意の英数字 3 文字とする。他の業種(関係)と重なってはならない。	cns	建設業 (construction)
4		ves	造船業 (steel vessel manufacturing and repair industry)
5		bk1	銀行・信託業 (bank 1)
6		bk2	銀行・信託業(特定取引勘定設置銀行) (bank 2)
7		cna	建設保証業 (construction assurance)
8		sec	第一種金融商品取引業 (有価証券関連業) (type I financial instruments business (securities related business))
9		in1	生命保険業 (insurance-life)
10		in2	損害保険業 (insurance-non-life)
11		rwy	鉄道事業 (railway)
12		wat	海運事業 (water transportation)
13		hwy	高速道路事業 (highway)
14		elc	電気通信事業 (electricity communication)
15		ele	電気事業 (electricity)
16		gas	ガス事業 (gas)
17		liq	資産流動化業 (asset liquidation)

No	項目・規約	設定値	説明
18		ivt	投資運用業（投資信託委託会社）（invest management business（investment trust management company））
19		inv	投資業（投資法人）（investment corporation）
20		spf	特定金融業（specific finance）
21		med	社会医療法人（medical corporation）
22		edu	学校法人（educational corporation）
23		cmd	商品先物取引業（commodity future trading）
24		lea	リース事業（lease）
25		fnd	投資信託受益証券（fund）
26		{財務諸表等規則等} 各財規の任意の英字	an
27	2文字とする。他の財務諸表等規則等と重なってはならない。	qn	四半期財務諸表等規則（quarterly nonconsolidated financial statements）
28		sn	中間財務諸表等規則（semi-annual nonconsolidated financial statements）
29		ac	連結財務諸表規則（annual consolidated financial statements）
30		qc	四半期連結財務諸表規則（quarterly consolidated financial statements）
31		sc	中間連結財務諸表規則（semi-annual consolidated financial statements）
32		{公開日}	YYYY-MM-DD

● 企業別タクソノミ

http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{EDINET コード}-{追番}/{報告書}/{報告対象期間末日}/{提出回数}/{提出日}

設定値を表 1-25 に示す。

表 1-25 企業別タクソノミの名前空間 URI 命名規約

No	項目	設定値	説明
1	{EDINET コード}	英数字	EDINET コード又はファンドコードを示す。
2	{追番}	数値	数値は3桁の000から開始し、1ずつ増加する。報告書インスタンスファイルが複数存在する場合のインスタンスの順番を示す。
3	{報告書}	asr	有価証券報告書
4	各報告書の任意の英字3文字。他の報告書と重なってはならない。	q{数値}r	四半期報告書 第{数値}四半期の報告書を示す。
5		ssr	半期報告書
6		srs	有価証券届出書
7	{報告対象期間末日}	YYYY-MM-DD	報告書の対象期間の期末日 ※ 有価証券届出書においては、最近事業年度末日を設定。 <例>最近2事業年度の財務諸表と最近事業年度の次の事業年度に係る中間財務諸表を記載している場合、最近事業年度末日を設定。
8	{提出回数}	数値	同一報告書の提出回数を数値2桁で示す。最初の報告を01とし、同一報告書を再提出する毎に、1ずつ増やす。02以上のものは修正再提出されたものとみなす。
9	{提出日}	YYYY-MM-DD	報告書、届出書の提出日

- ロールタイプスキーマ

http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{層}/{スキーマタイプ}/{公開日}

設定値を表 1-26 に示す。

表 1-26 ロールタイプスキーマの名前空間 URI 命名規約

No	項目	設定値	説明
1	{層}	o	語彙、関係、企業別拡張以外の層 (other layer) を示す
2	{スキーマタイプ}	rt	ロールタイプ (role type) スキーマであることを示す
3	{公開日}	YYYY-MM-DD	ロールタイプスキーマの公開日

- 他要素スキーマ

http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{層}/{スキーマタイプ}/{公開日}

設定値を表 1-27 に示す。

表 1-27 他要素スキーマの名前空間 URI 命名規約

No	項目	設定値	説明
1	{層}	o	語彙、関係、企業別拡張以外の層 (other layer) を示す。
2	{スキーマタイプ}	oe	他要素 (other elements) スキーマであることを示す。
3	{公開日}	YYYY-MM-DD	公開日

5-2 名前空間プレフィックス

FRTA 4.3.2 に従い、1 文字以上 12 文字以内で、表 1-28 の通り規定する。但し、提出会社を特定するコードを含めて 12 文字にすることは困難なため企業別タクソノミは FRTA4.3.2 に準拠しない。なお、名前空間プレフィックスは名前空間URIのファイル内の省略文字であるため、名前空間URIさえ異なっていれば他の用途とのタクソノミと区別はつくが、XBRLデータの利用者の混乱を避けるためにも、名前空間プレフィックスもEDINET以外のタクソノミと異なるようにする。

表 1-28 名前空間プレフィックスの命名規約一覧

No	対象	命名規約	説明
1	語彙 タクソノミ	jpfr-t- {業種(語彙)}	{業種(語彙)}は表 1-23 と同じ値を設定。 <例>建設業財務諸表語彙タクソノミの場合 jpfr-t-cns
2	関係 タクソノミ	jpfr- {業種(関係)}- {財務諸表等規則等}	{業種(関係)}及び{財務諸表等規則等}は表 1-24 と同じ値を設定。 <例>一般商工業の連結財務諸表タクソノミの場合 jpfr-cai-ac <例>銀行・信託業の連結財務諸表タクソノミの場合 jpfr-bk1-ac
3	企業別 タクソノミ	jpfr- {報告書}- {EDINET コード}- {追番}	{報告書}及び{EDINETコード}は表 1-25 と同じ値を設定。 <例>EDINET コードが X99999 の提出会社の有価証券報告書の場合 jpfr-asr-X99999-000
4	ロールタイプ スキーマ	jpfr-rt	—
5	他要素スキーマ	jpfr-oe	—

5-3 拡張リンクロール・リソースロール

FRTA 3.1.11 及び 3.1.12 に従い規定する。

5-3-1 名称リンクの拡張リンクロール

名称リンクの拡張リンクロールを次の通り規定する。設定値を表 1-29 に示す。

<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/{拡張リンクロール名}>

表 1-29 拡張リンクロールの命名規約(名称リンク)

No	項目	設定値	説明
1	{拡張リンク ロール名}	{用途}	用途を示す文字を英字で 設定する。
2	{用途}	NonConsolidated	財務諸表用
3		NonConsolidatedQuarterly	四半期財務諸表用
4		NonConsolidatedInterim	中間財務諸表用
5		Consolidated	連結財務諸表用
6		ConsolidatedQuarterly	四半期連結財務諸表用
7		ConsolidatedInterim	中間連結財務諸表用

なお、拡張リンクロールの一覧は、「添付 4 ロール一覧」を参照。

5-3-2 表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロール

表示リンク及び計算リンクの拡張リンクを次の通り規定する。設定値を表 1-30 に示す。

[http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{業種\(関係\)}/?role/{拡張リンクロール名}](http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{業種(関係)}/?role/{拡張リンクロール名})

表 1-30 拡張リンクロールの命名規約(表示リンク・計算リンク)

No	項目	対象	設定値	説明
1	{業種(関係)}	—	表 1-24 の業種(関係)参照。	業種(関係)で特有の拡張リンクロールを設定する場合、対応する業種(関係)を設定する。 [{業種(関係)} /] ? は、“ {業種(関係)} / ” が 0 回又は 1 回出現することを表現している。 ※2008年2月1日現在のタクソノミでは、投資主資本等変動計算書を表現する場合、“inv”(投資業)を設定する。また、同様に {業種(関係)} に業種コードが設定される業種は、投資主資本等変動計算書の投資業(inv)だけでなく、社会医療法人(med)、資産流動化業(liq)も該当する。
2	{拡張リンクロール名}	—	{諸表名}[{補足情報}]	財務諸表名を英数字で設定する。
3	{諸表名}	—	NonConsolidatedBalanceSheets	貸借対照表
4			ConsolidatedBalanceSheets	連結貸借対照表
5			(その他詳細は、「添付4ロール一覧」を参照)	

No	項目	対象	設定値	説明
6	補足情報	株主資本等変動計算書等	2	株主資本等変動計算書等(含む純資産変動計算書、社員資本等変動計算書、投資主資本等変動計算書)の集計の流れを表す科目間の計算リンクに適用する。詳細は補足説明参照。

補足説明：株主資本等変動計算書等(含む純資産変動計算書、社員資本等変動計算書、投資主資本等変動計算書)の計算リンクは以下の2種類存在する。

- ・株主資本等変動計算書等の純資産を構成する各勘定科目の、期首・期中増減・期末への変動の流れ。この中の、期中増減部分に計算リンクを設定する。(補足情報の“2”がつかない)
- ・期首・期中増減・期末を構成する各項目の純資産を構成する各勘定科目を横断した集計の流れ。この流れそれぞれに計算リンクを設定する。(補足情報の“2”がつく)

財務諸表等規則等、又は業法等の改正により、改正前と改正後の表記又は計算を同一の拡張リンクロールで表現できない場合、改正前を表す拡張リンクロールに対して表 1-31 の値を設定する。

表 1-31 拡張リンクロールの命名規約(改正対応)(表示リンク・計算リンク)

No	項目	設定値	説明
1	{拡張リンクロール名}	{諸表名}{補足情報}_“Prior”	{諸表名}に{補足情報}を付加し、固定値“Prior”をアンダーバーで結合する。

注：表 1-31 の“Prior”は表示リンク、計算リンクの拡張リンクロールに対してのみ設定し、名称リンク、参照リンク、定義リンクの拡張リンクロールには設定しない。

5-3-3定義リンクの拡張リンクロール

汎化ー特化の関係を表す場合の拡張リンクロールを、次の通り規定する。設定値を表 1-32 に示す。

[http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{業種\(関係\)}/role/{諸表名}](http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/{業種(関係)}/role/{諸表名})

表 1-32 拡張リンクロールの命名規約(汎化-特化の関係の定義)

No	項目	設定値	説明
1	{業種(関係)}	表 1-24 の業種(関係)を参照。	対応する業種(関係)を設定する。なお、一般商工業のタクソノミの拡張リンクロールには、業種を表す cte もしくは、cai のコードは設定されていない。
2	{諸表名}	NonConsolidatedBalanceSheets	貸借対照表
3		ConsolidatedBalanceSheets	連結貸借対照表
4		(その他詳細は、「添付 4 ロール一覧」を参照)	

汎化-特化の関係以外を表す場合の拡張リンクロールを、次の通り規定する。設定値を表 1-33 に示す。

<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/{ロール名}>

表 1-33 拡張リンクロールの命名規約(汎化-特化の関係以外の定義)

No	項目	設定値	説明
1	{ロール名}	Gross-Net	総額要素と純額要素の関係を示す。
2		Gross-Allowance	総額要素と貸倒引当金要素の関係を示す。
3		Gross-AccumulatedDepreciation	総額要素と減価償却累計額要素の関係を示す。
4		Gross-AccumulatedImpairmentLoss	総額要素と減損損失累計額要素の関係を示す。
5		Gross-AccumulatedDepreciationAndImp	総額要素と減価償却累計額及び減損損失累計額要素の関係を示す。

なお、拡張リンクロールの一覧は、「添付 4 ロール一覧」を参照。

5-3-4 フットノートリンクの拡張リンクロール

フットノートリンクの拡張リンクロールは、表示リンクと同じ拡張リンクロールを設定する。表示リンクの拡張リンクロールの命名規約は、「5-3-2 表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロール」を参照。

5-3-5 フットノートリンクのリソースロール

フットノートリンクのリソースロールを、次の通り規定する。設定値を表 1-34 に示す。
<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/{拡張リンクロール名}>

表 1-34 リソースロールの命名規約(フットノートリンク)

No	項目	設定値	説明
1	{拡張リンクロール名 }	{用途}	用途を示す文字を英字で設定する。
2	{用途}	NotesNumber	注記番号を表す
3		NotesNumberPeriodStart	期首のみの注記番号を表す
4		NotesNumberPeriodEnd	期末のみの注記番号を表す

なお、拡張リンクロールの一覧は、「添付 4 ロール一覧」を参照。

5-4 定義リンクにおけるアークロール

次のように規定する。

<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/arcrole/{アークロール名}>

アークロール名は、表 1-33 と同一のロール名を使用する。

なお、拡張リンクのアークロールの一覧は、「添付 5 アークロール一覧」を参照。

5-5 タクソノミファイル名

5-5-1 語彙層

● 語彙タクソノミ

FRTA 4.3.4 に従い、表 1-35、表 1-36 の通り規定する。

表 1-35 語彙タクソノミのファイル命名規約

No	ファイルの種類	命名規約
1	スキーマファイル	{名前空間プレフィックス}-{公開日}.xsd
2	参照リンクファイル	{名前空間プレフィックス}-{公開日}-reference.xml
3	名称リンクファイル	{名前空間プレフィックス}-{公開日}-label{-言語 }{-補足情報}.xml

表 1-36 語彙タクソノミのファイル名設定値一覧

No	項目	設定値	説明
1	{名前空間プレフィックス}	文字列	表 1-28 を参照
2	{公開日}	YYYY-MM-DD	当該語彙タクソノミの公開日
3	{-言語}	-en	英語名称
4		(設定なし)	日本語名称の場合、設定しない
5	{-補足情報}	-cte	商工業・その他、共通語彙に対する業種ラベルを保存する場合に使用する。
6		(設定なし)	商工業・その他、共通語彙のラベル及び各業種語彙のラベルを保存する場合、設定しない。

5-5-2 関係層

● 関係タクソノミ

FRTA 4.3.4 に従い、表 1-37、表 1-38 の通り規定する。

表 1-37 関係タクソノミのファイル命名規約

No	ファイルの種類	命名規約
1	スキーマファイル	{名前空間プレフィックス}-{公開日}.xsd
2	リンクベースファイル (表示リンク、計算リンク)	{名前空間プレフィックス}-{公開日}-{リンクベース}.xml

表 1-38 関係タクソノミのファイル名設定値一覧

No	項目	設定値	説明
1	{名前空間プレフィックス}	文字列	表 1-28 を参照
2	{公開日}	YYYY-MM-DD	当該関係タクソノミの公開日
3	{リンクベース}	presentation	表示リンク
4		calculation	計算リンク

- 定義リンク

FRTA 4.3.4に従い、表 1-39、表 1-40 の通り規定する。

表 1-39 定義リンクのファイル命名規約

ファイルの種類	命名規約
定義リンクファイル	jpfr- {業種(関係)} -cm- {公開日} -definition.xml

表 1-40 定義リンクのファイル名設定値一覧

No	項目	設定値	説明
1	{業種(関係)}	文字列	表 1-24 を参照
2	{公開日}	YYYY-MM-DD	当該ファイルの公開日

● パターン別リンクベースファイル

FRTA 4.3.4 に従い、表 1-41、表 1-42 の通り規定する。なお、パターン別リンクベースファイルの一覧は、「添付 3 パターン別リンクベースファイル一覧」を参照。

表 1-41 パターン別リンクベースファイルのファイル命名規約

ファイルの種類	命名規約
パターン別リンクベースファイル (表示リンク、計算リンク)	{名前空間プレフィックス}-{公開日}-{リンクベース}-{パターン}.xml

表 1-42 パターン別リンクベースファイルのファイル名設定値一覧

No	項目	設定値	説明
1	{名前空間プレフィックス}	文字列	表 1-28 を参照
2	{公開日}	YYYY-MM-DD	当該関係タクソノミの公開日
3	{リンクベース}	presentation	表示リンク
4		calculation	計算リンク
5	{パターン}	[{連番}-{略語}]*{連番}-{略語}	様式の表示方法のパターンを明記。 ([連番]-{略語})*{連番}-{略語}とは、[連番]-{略語}が 0 回以上繰り返し、最後に{連番}-{略語}で終わることを示している)
6	{連番}	数値	様式の表記方法を連番としたもの。ファイル名順にソートした際の順序を制御するために設定する。 連番の最大値の桁数にあわせて先頭を 0 埋めする。
7	{略語}	英数字(ハイフン含む)	略語一覧及び意味は、「タクソノミフレームワーク設計書(会計編)」参照。

<例 1>関係タクソノミのリンクベースファイル

個別財務諸表タクソノミの表示リンクファイル(公開日は 2008 年 2 月 1 日の場合)

jpfr-cai-an-2008-02-01-presentation.xml

<例 2>流動資産の貸倒引当金を科目別控除する方法を記載したパターン別リンクベースファイル(公開日は2008年2月1日の場合)

ファイル名 :

jpfr-cai-an-2008-02-01-presentation-1-BS-01-CA-Doubtful-1-ByAccount.xml

<例 3>有形固定資産を一括掲記する方法を記載したパターン別リンクベースファイル(公開日は2008年2月1日の場合)

ファイル名 :

jpfr-cai-sn-2008-02-01-presentation-1-BS-02-PPE-1-OneLine.xml

<例 4>売上高を総売上高表示する方法を記載したパターン別リンクベースファイル(公開日は2008年2月1日の場合)

ファイル名 :

jpfr-cai-an-2008-02-01-presentation-2-PL-01-Sales-2-Gross.xml

表 1-43 パターンを表す連番と略語の設定例

No	連番	略語	説明	連番	略語	説明	連番	略語	説明
1	1	BS	貸借対照表	01	CA- Doubtful	流動資産 の貸倒引 当金	1	ByAccount	勘定科目別控除
2							ByGroup	一括控除	
3							Direct	直接控除	
4				02	PPE	有形固定 資産	1	OneLine	一括掲記
5							2	ByAccount	勘定科目別掲記
6	2	PL	損益計 算書	01	Sales	売上高	1	Net	売上高純額表示
7							2	Gross	売上高総額表示
8							3	ByType	区分表示

5-5-3 企業別拡張層

- 企業別タクソノミ

FRTA 4.3.4 と異なるが、FRTA 4.3.4 はSHOULDレベルの規定のため、運用を考慮し表 1-44 の通り規定する。

表 1-44 企業別タクソノミのファイル命名規約

No	ファイルの種類	命名規約
1	スキーマファイル	{名前空間プレフィックス}-{報告対象期間末日}-{提出回数}-{提出日}.xsd
2	リンクベースファイル	{名前空間プレフィックス}-{報告対象期間末日}-{提出回数}-{提出日}-{リンクベース}.xml
3	名称リンクファイル	{名前空間プレフィックス}-{報告対象期間末日}-{提出回数}-{提出日}-label{-言語}.xml

なお、{名前空間プレフィックス}の報告書及びEDINETコード、{報告対象期間末日}、{提出回数}、{提出日}は表 1-25 と同じ値を設定する。{リンクベース}、{言語}の設定は、表 1-36、表 1-37、表 1-38、表 1-39 を参照。

<例>EDINET コードが X99999 の提出会社の有価証券報告書(2008 年 3 月 31 日報告対象期間末日、初回、2008 年 6 月 27 日提出)の場合

スキーマファイル： jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27.xsd
 表示リンクファイル： jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27-presentation.xml
 定義リンクファイル： jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27-definition.xml
 計算リンクファイル： jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27-calculation.xml
 名称リンクファイル(日本語)： jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27-label.xml
 名称リンクファイル(英語)： jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27-label-en.xml

5-6 インスタンスファイル名

FRIS 2.1.3 に従い、次のように規定する。

- 雛形インスタンス

jpfr-{報告書}-template.xbrl

なお、{報告書}は表 1-25 と同じ値を設定する。

<例>有価証券報告書の場合

jpfr-asr-template.xbrl

- 提出会社が提出する報告書インスタンス

{名前空間プレフィックス}-{報告対象期間期末日}-{提出回数}-{提出日}.xbrl

なお、{名前空間プレフィックス}、{報告対象期間期末日}、{提出回数}、{提出日}は、5-5-3企業別拡張層 と同じ値を設定する。

<例>EDINET コードが X99999 の提出会社の有価証券報告書(2008 年 3 月 31 日報告

対象期間末日、初回、2008年6月27日提出)の場合
jpfr-asr-X99999-000-2008-03-31-01-2008-06-27.xbrl

5-7 ロールタイプスキーマ及び他要素スキーマのファイル名

- ロールタイプスキーマ

ロールタイプスキーマの名称を次の通りとする。

jpfr-rt-`{公開日}`.xsd

なお、`{公開日}`は表 1-24 と同じ値を設定する。

<例>2008年2月1日公開のロールタイプスキーマの場合

jpfr-rt-2008-02-01.xsd

- 他要素スキーマ

他要素スキーマの名称を次の通りとする。

jpfr-oe-`{公開日}`.xsd

なお、`{公開日}`は表 1-24 と同じ値を設定する。

<例>2008年2月1日公開の他要素スキーマの場合

jpfr-oe-2008-02-01.xsd

5-8 コンテキストの設定値

設定値を表 1-45 に示す。

表 1-45 コンテキストの設定値

No	項目	設定値	説明
1	id	文字列	表 1-47 を参照
2	scheme	http:// info.edinet-fsa.go.jp	EDINET の名前空間 URI を設定する。
3	identifier	{EDINET コード}-{追番}	表 1-25 を参照。

企業合併後、前会計年度において存続会社が自社と併記企業の財務諸表を併記する場合など、自社以外の財務諸表を表現する場合がある。併記企業側の報告書インスタンスに設定するコンテキストの設定値は次の通りとする。

- 併記企業にEDINETコードが付与されていた場合、表 1-45 と同様に作成する。

併記企業にEDINETコードが付与されていなかった場合、表 1-46 の設定値でコンテキストを作成する。

表 1-46 EDINET コードがない併記企業のコンテキストの設定値

No	項目	設定値	説明
1	id	文字列	表 1-47 を参照
2	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp/nocode	EDINET コードが付与されていなかった事を示す。
3	identifier	{EDINET コード}-{追番}	表 1-25 を参照。{EDINETコード}は存続会社のコードを使用し、{追番}は固定値“A01”を設定する。

表 1-47 コンテキスト id

{相対年度} {連結/個別} {期間/時点} [_{併記企業用}]

No	区分	設定値	説明
1	{相対年度}	CurrentYear	当年度を意味する。
2		Interim	中間期を意味する。
3		Prior1Year	前年度を意味する。
4		Prior1Interim	前中間期を意味する。
5		Prior2Year	前々年度を意味する。
6		Prior {数値} Year	{数値} 年度前を意味する。
7		CurrentYTD	当四半期累計期間を意味する。
8		CurrentQuarter	当四半期会計期間を意味する。
9		Prior {数値} YTD	{数値} 年度前同四半期累計期間を意味する。
10		Prior {数値} Quarter	{数値} 年度前同四半期会計期間を意味する。
11		LastQuarter	前四半期会計期間を意味する。
12		Prior {数値} LastQuarter	{数値} 年度前四半期会計期間を意味する。
13	{連結/個別}	Consolidated	連結の報告を意味する。
14		NonConsolidated	個別の報告を意味する。
15	{期間/時点}	Instant	時点を意味する。
16		Duration	期間を意味する。
17	{併記企業用}	数値	併記企業のコンテキストを意味する。固定値“2”を設定する。

6. FRTA/FRIS との不整合及び注意点

6-1 FRTA との不整合

6-1-1 名前空間プレフィックス

企業別タクソノミの名前空間プレフィックスは 12 文字を超えるため、FRTA4. 3. 2 の MUST に違反する。

6-1-2 リンクベースのファイル名

企業別タクソノミが EDINET タクソノミの定義リンクを参照したままの場合、FRTA4. 3. 4 の SHOULD に違反する。

6-1-3 定義リンクの拡張リンクのアーキロール

総額－純額などのアーキロールは、標準にも LRR にも登録されていないので、FRTA3. 1. 2 の MUST に違反する。企業別タクソノミが EDINET タクソノミの定義リンクを参照したままの場合、又は提出会社が追加した勘定科目について、純額－総額などの関係を定義した場合、該当する。

6-1-4 名称リンクのロール

正値負値ラベルのロールは標準にも LRR にも登録されていないので、FRTA3. 1. 3 の MUST に違反する。

6-1-5 セグメント毎に記載される勘定科目

業法等で事業毎に区別することが定められている場合、業法等に従って勘定科目を区別する。FRTA 2. 1. 2 では事業セグメント別にインスタンス上でコンテキストを作成する記載があるが、本タクソノミフレームワークでは事業セグメント別の勘定科目は意味のある勘定科目と捉え、別要素として定義を行う。

6-2 FRIS との不整合

6-2-1 FRTA 違反のタクソノミによるエラー

名前空間プレフィックス に記載の通り、企業別タクソノミは FRTA 違反のため、報告書インスタンスは FRIS2. 1. 2 の MUST に違反する。

6-2-2 期首のコンテキスト

FRIS に従うと、当期の期首を表すコンテキストを設定せず、前期末のコンテキストを使用しなければならないため、EDINET タクソノミにおいては FRIS の指針を採用する。

6-2-3 フットノートリンク

フットノートリンクのリソースロールは LRR に登録されていないため、注記番号を設定した報告書インスタンスは、FRIS2.9.3 の MUST に違反する。

6-3 検証に関する注意点

インスタンスに対して計算リンクの検証を実施すると、計算リンクのサブツリー毎に、コンテキストとユニットの組み合わせで設定された値の加減算関係のチェックが行われる。

拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせが意図したものと一致している場合、正しく検証されるが、意図したものと一致していない組み合わせの場合、正しく検証されない。例えば、図 1-8 では、連結用の拡張リンクロールと連結用コンテキストの組み合わせや個別用の拡張リンクロールと個別用コンテキストは意図したものであるため正しく検証されるが、個別用の拡張リンクロールと連結用コンテキストの組み合わせや連結用の拡張リンクロールと個別用の拡張リンクロールの組み合わせでは正しい検証結果にはならない。そこで、本タクソノミフレームワークでは正しい組み合わせを入力できる要素を文書情報タクソノミに用意している。利用方法等の詳細は「タクソノミフレームワーク設計書(技術編：文書情報)」を参照。

科目	連結用 拡張リンク ロール	個別用 拡張リンク ロール	連結用 拡張リンク ロール	個別用 拡張リンク ロール
	連結用 コンテキスト	個別用 コンテキスト	連結用 コンテキスト	個別用 コンテキスト
現金及び預金	← 567	← 123	← 567	← 123
受取手形及び売掛金	← 1,234	(該当なし)	← 1,234	(該当なし)
有価証券	← 789	← 456	← 789	← 456
たな卸資産	← 3,456	← 789	← 3,456	← 789
...	← 12	(該当なし)	← 12	(該当なし)
...				
受取手形	(該当なし)	12	(該当なし)	12
売掛金	(該当なし)	34	(該当なし)	34
...	(該当なし)	56	(該当なし)	56
...				
流動資産合計	6,058	1,470	6,058	1,470

検証対象 (Circled) 検証対象外 (Crossed out)

図 1-8 拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせについて

※拡張リンクロールとコンテキストの意図した組み合わせのみを検証する。